

KORG

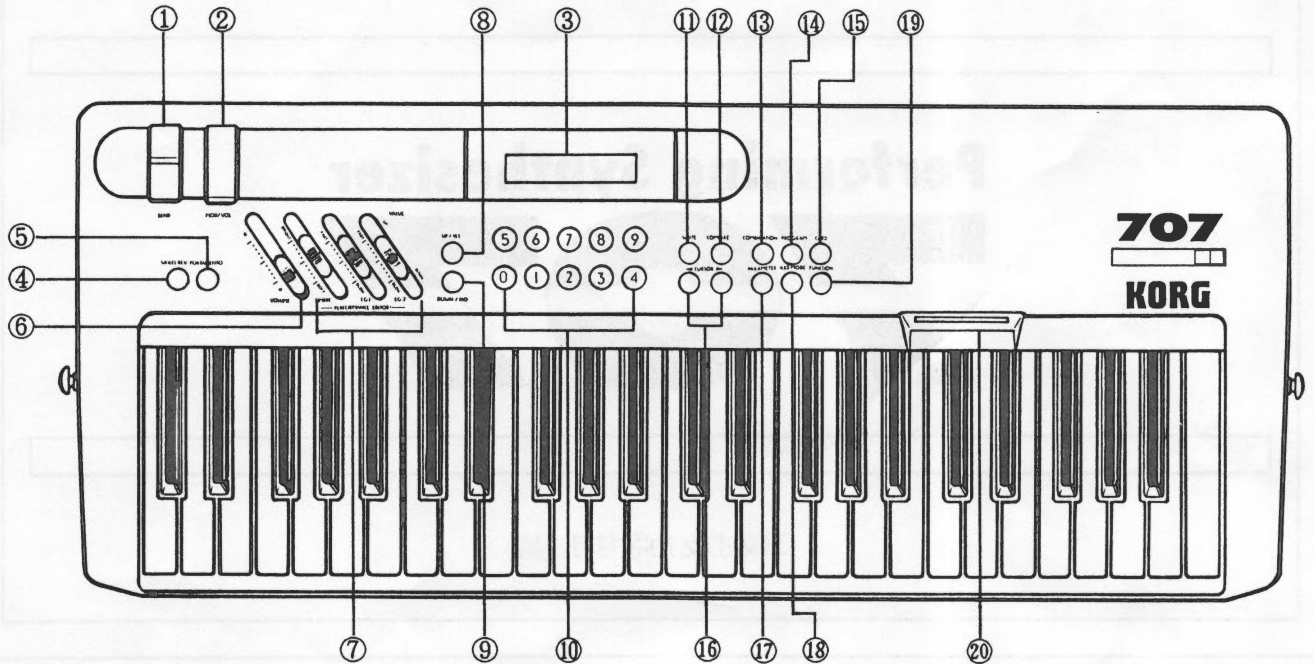
Performing Synthesizer

707

取扱説明書

各部の名称と機能

1. フロントパネル



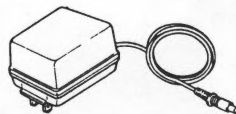
- | | | |
|---|---------------|---------------|
| ①パワーホイル | ⑧UP/YESキー | ⑮カードスイッチ |
| ②モジュレーション/ボリュームホイル | ⑨DOWN/NOキー | ⑯カーソルキー(◀、▶) |
| ③LCDディスプレイ | ⑩タンク | ⑰パラメータスイッチ |
| ④ホイルリハーススイッチ | ⑪ライトスイッチ | ⑱キーボードモードスイッチ |
| ⑤ボリュームメントスイッチ | ⑫コンパーススイッチ | ⑲ファンクションスイッチ |
| ⑥ボリュームスライダ | ⑬コンビネーションスイッチ | ⑳カードスロット |
| ⑦パフォーマンスエディター
(ティンバー、EG1、EG2=ボリュームスライダと共通) | ⑭プログラムスイッチ | |

①POWER SW(パワースイッチ)

電源スイッチです。
全ての接続が完了したら、
本体のボリュームを下げた
ままPOWERスイッチをONに
します。

②AC9V、アダプター端子

オプションのACアダプター
(KORG・KAC=301)を接続し
ます。



③PHONES(ホーンズ)端子

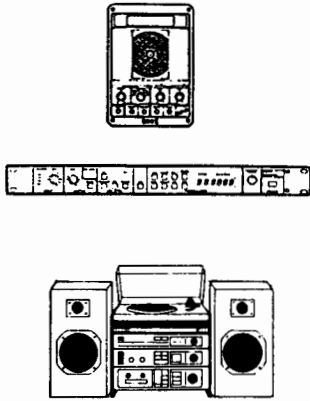
ステレオヘッドホン接続
します。



2. リアパネル

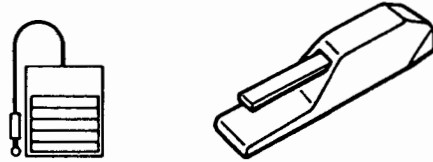
④OUT PUT(アウト)端子 [A/MIX, B]

2つの出力端子を別々のアンプで再生することによって、ステレオ効果が得られます。モノラルで使用する場合はA/MIX端子だけをご使用ください。

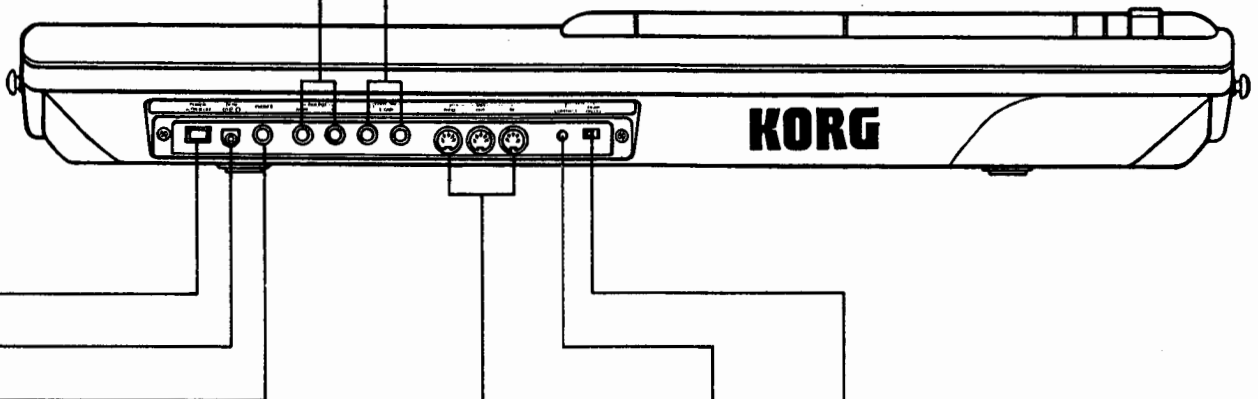


⑤Foot SW 1, 2(フットスイッチ)端子

フットスイッチ(PS-1, PS-2など)や、ダンパーペダルスイッチ(DS-1など)を接続します。ポルタメント、ダンパー、プログラムアップ、プログラムダウンの4つの機能の中から各端子に1つずつ選んで割り当てます。

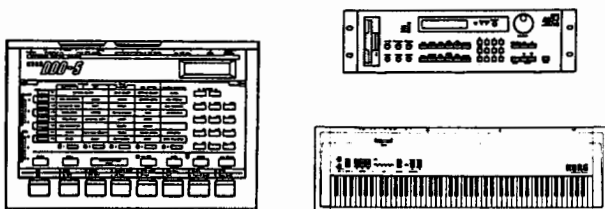


*フットスイッチは、 \perp GNDタイプのもをご使用ください。



⑥MIDI端子 [IN, OUT, THRU]

MIDIケーブル(15m以内のもの)を使って、様々なMIDI機器と接属します。



⑦LCDコントラストつまみ

LCDディスプレイの明るさを調節します。右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。

⑧LCDバックライトスイッチ

ONにすると、LCDディスプレイのバックライトがつき、OFFにすると消えます。電池を使用する際は、このスイッチをOFFにしておくと電池を節約することができます。

このたびはコルグ・パフォーマンスシンセサイザー・707をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。
またお読みになったあとは大切に保管してください。

主 な 特 長

1. デジタル音源採用

多彩な機能とハイコストパフォーマンスを実現したニュータイプの8ボイス16オシレーター(2系統)・デジタルシンセサイザーです。

2. 100音色プログラムメモリー

オリジナルプログラムも自由にエディットしてメモリーしておくことが可能です。
また、同時に2つのプログラムをプレイできるレイヤーモード、鍵盤上のスプリットポイントを自由に設定できるダブルモード、8つのプログラムを組み合わせる演奏させることができるマルチモードを装備しており、これらをコンビネーションプログラムとして本体に10種類メモリーできます。

3. マルチモード

8つのプログラムのMIDIチャンネルを別々に設定し、シーケンサー(SQD-8など)を使ったマルチプレイを実現しました。8種類の音色を1台の707で演奏することができます。

4. キータッチセンス機能

キーベロシティ、アフタータッチ機能を備え、

鍵盤を弾く強さによって音色や音量の変化、ピッチモジュレーションなどをリアルタイムにコントロールします。

5. パフォーマンスエディター採用

プレイ中に音色を変化させたり、複雑なイメージのデジタルシンセサイザーをアナログ感覚でコントロールすることが可能になりました。さらに、ここでエディットした音色を即座にメモリーすることもできます。

6. メモリーカード

オプションのRAMカード(MCR-02など)に、1バンク当たり100プログラム、10コンビネーションをメモリー。またKORG・DS-8用ROMカードも使用できます。本体と合わせて200プログラム、20コンビネーションの中から自在にプログラムを呼び出すことができます。

7. MIDI

MIDI機能も充実。プログラムチェンジ、コントローラー、データダンプなど豊富なMIDIメッセージを用意しました。

目 次

各部の名称と機能	1
主な特長	3
707セットアップ	4
モード&ファンクション	7
1. プログラムモード	8
2. コンビネーションモード	12
3. パラメーターモード	14
I ボイスパラメーター	14
II コンビパラメーター	22
4. ファンクションモード	26

5. ライトモード	32
プレイングファンクション	35
エラーメッセージ・ワーニングメッセージ	37
故障とお思になる前に	38
MIDI IMPLEMENTATION	39
MIDIインプリメンテーションチャート	44
スペック/オプション	45
使用上の注意	46
アフターサービス	46

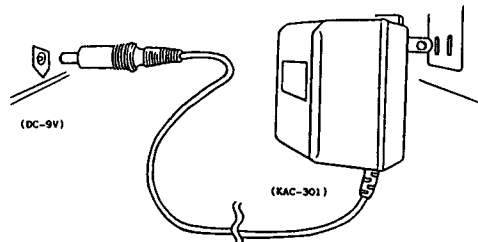
707 セットアップ

1. SET UP

まず707の音を出すためのセッティングを行います。

①電源のセッティングを行います。

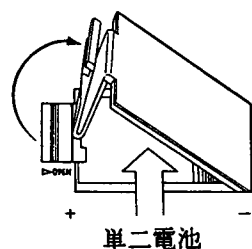
[コンセント(AC100V)を電源とする場合]



専用のACアダプター (KORG KAC-301) を本体リアパネルのDC9Vジャック及びコンセントに接続します。

注) ACアダプター使用の場合は電池は抜いておいてください。

[電池を使う場合]



1. 本体底部の電池カバーを外します。

2. 新しい単二電池6本を(+)(-)を間違えないようにいれます。(左図参照)

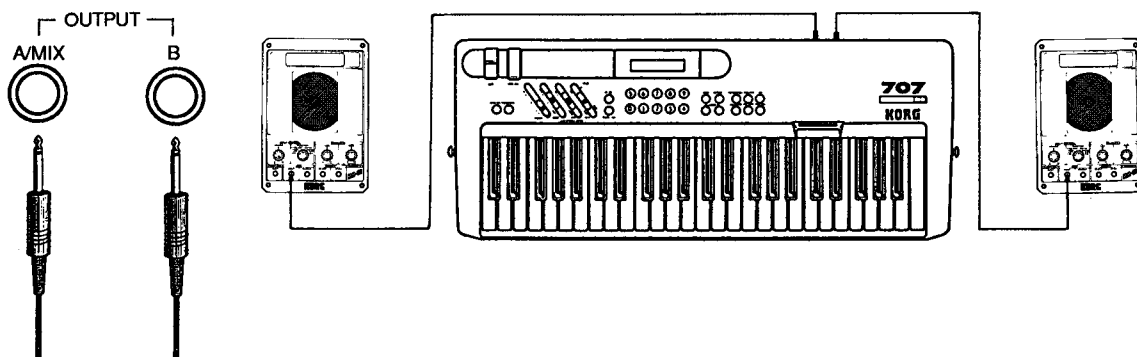
3. 電池カバーを取り付けます。

注) 電池交換の際はACアダプターを抜いておいてください。

- 工場出荷時は電池が入っていますが、液漏れ防止のために紙がはさまっています。必ず紙紙を取り除いてから使用してください。
- ACアダプターは、必ずKORG・KAC-301をご使用ください。他のものをご使用になりますと、故障の原因になります。ご注意ください。
- ACアダプターは、電源電圧が100Vのコンセントにさし込んで使用してください。電源電圧が90V以下、または110V以上になりますと、誤動作を起こすことがありますのでご注意ください。
- 電池の寿命は通常の使用状態(ナショナルHi=TOP/SUM=2(DG)使用:PLAY動作、0~40℃の連続使用)で約3時間程度ですが、その1時間程前から“WARNING CHANGE BATTERY”が表示されます。また、ご使用になる電池の種類、LCDバックライトスイッチのON/OFF、ヘッドホン使用等で多少異なります。“WARNING CHANGE BATTERY”が表示された場合は電池が消耗していますのでお早めに新しい電池と交換してください。

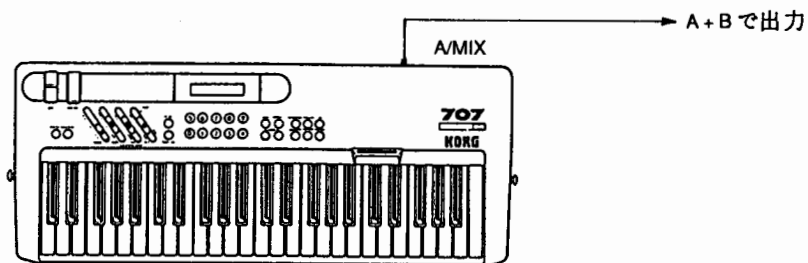
②オーディオ・ケーブル(シールド線)を接続します。

707は、A、Bの2つのOUTPUT(アンプへの出力)を持っています。



[ミックスアウト(モノラル)で出力させる場合]

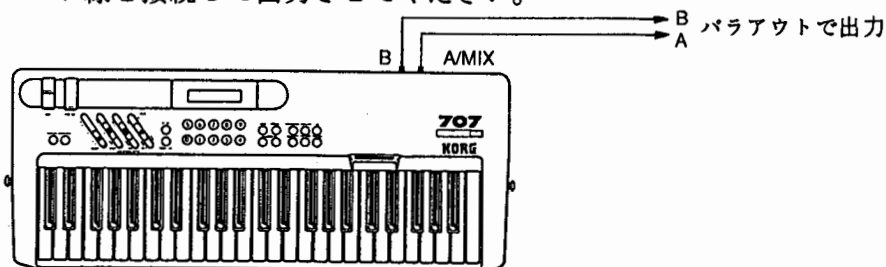
リアパネルOUTPUTのAのジャックのみにシールド線を接続すると、OUTPUTA、Bがミックスされたものが出力されます。



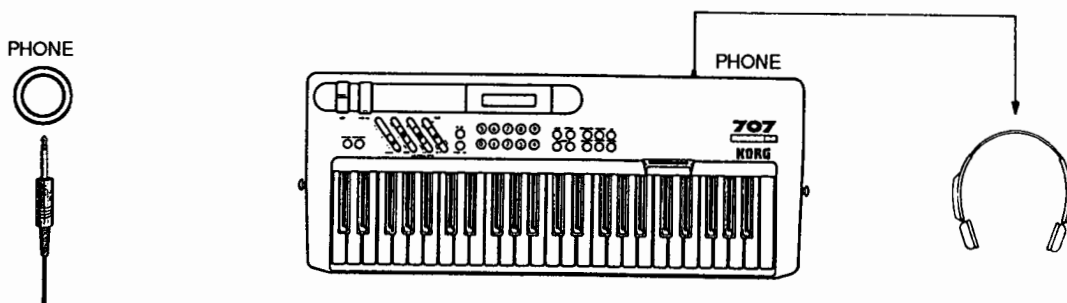
注) この場合、PHONESジャックよりの出力もミックスOUTになります。

[パラアウト (ステレオ) で出力させる場合]

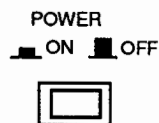
A、B端子のそれぞれにシールド線を接続して出力させてください。



- ③ヘッドホンでモニターする時はヘッドホンを接続します。
ヘッドホンプラグをリアパネルのPHONESに接続します。



- ④POWERスイッチ(電源スイッチ)をONにします。



リアパネルのPOWER SW. を押して下さい。
LCDディスプレイには、“KORG 707 Performing Synth”と表示されます。
またこの後、パネルのPROGRAMスイッチのLED(赤いランプ)が自動的に点灯します。(メモリーカードを使用する場合は、電源ONの後にカードをスロットにセットしてください。)

- ⑤707のボリュームスライダーを上げ音量を調整します。

2. プリセットの音を確認しよう。

KORGパフォーミングシンセサイザー707は、デジタル音源によって、ストリングスや、ブラスのように暖かなぶ厚いサウンドから、ベルなど鋭く金属的なサウンドまでありとあらゆるサウンドを自由に作り出すことができます。

707本体にはこの特徴を最大限に発揮したサウンドがあらかじめセットされています。まずはこのサウンドを聴いて707の特徴を知ると同時に、演奏を楽しんでください。

- ・プログラムモードについて



電源ON直後には、パネルのPROGRAMスイッチのLED(赤いランプ)が点灯しています。このLEDが付いている状態をプログラムモードといい、このプログラムモードにおいてインターナルメモリの100音色を自由に呼び出すことができます。操作の途中で、誤って他のキーを押してしまい音色切り換えができなくなってしまうときには、PROGRAMスイッチを押してください。PROGRAMスイッチのLEDが点灯し、音色の切り換えができる状態になります。

・インターナルメモリ100音色の呼び出し方



I3* Tine Piano
SGL

①音色は00~99までの番号がつけられています。パネル中央のテンキー(0~9)で、まず最初の番号を指定します。36番ならば、3のキーを押します。



I36 Chunga
SGL

②次に音色番号(プログラムナンバー)の下の位の番号を指定します。36番ならば、6のキーを押します。キーを押すとディスプレイの表示が変わり、36番の音色に切りかわります。

UP/YES



I37 AnalogBass
SGL

☆音色は、UP/YESキーまたはDOWN/NOキーでも切り換えられます。UP/YESキーを押すと次の番号の音色になり、DOWN/NOキーを押すとひとつ前の番号の音色になります。



DOWN/NO

パラメーターリスト

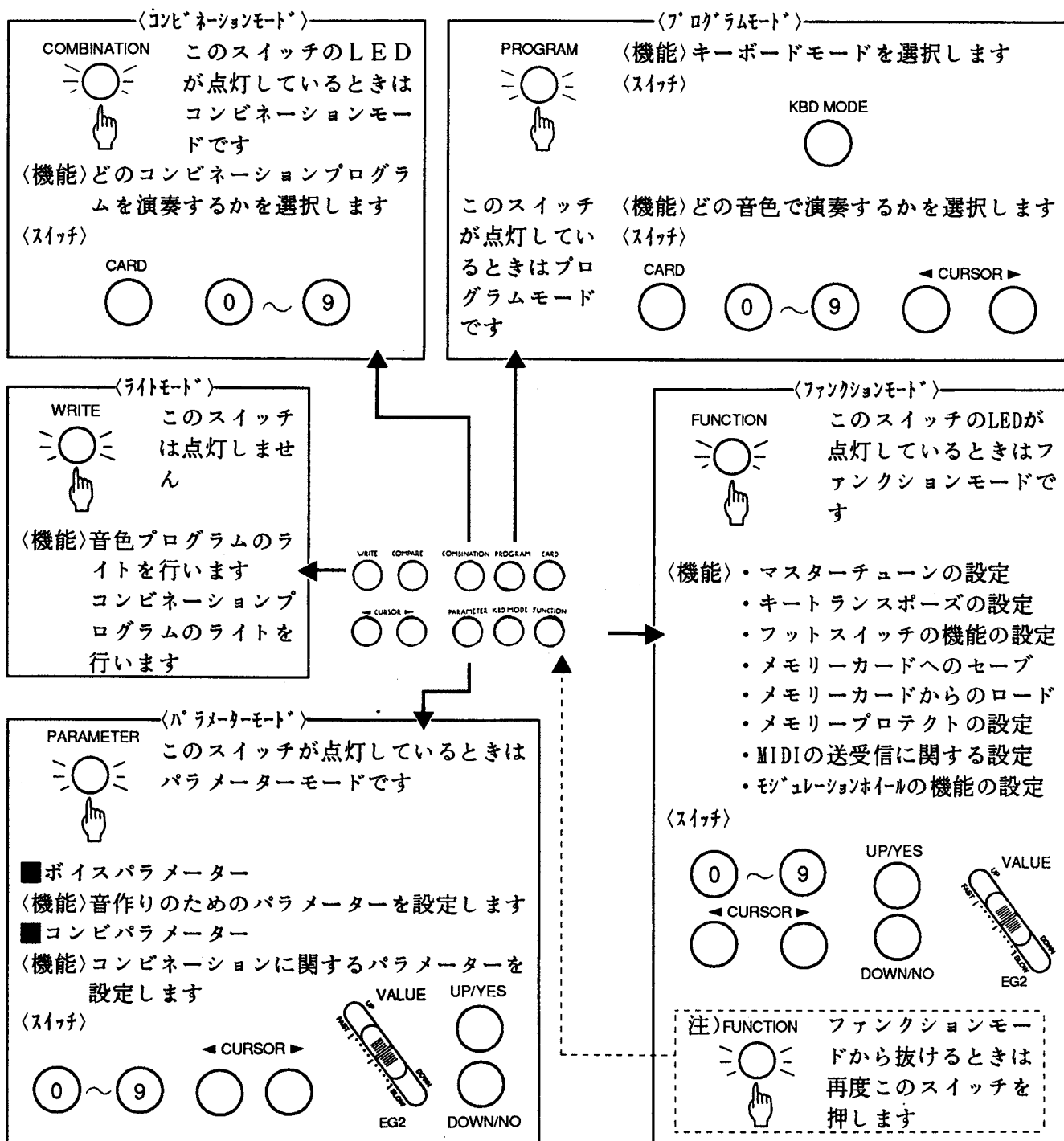
[付属のパラメーターシートは、剥しても糊あとの残らないステッカーを使用しています。]

FUNCTION	0	MASTER TUNE	5	MEMORY PROTECT
	1	TRANSPOSE	6	MIDI(CH/OMNI/LOCAL)
	2	FOOT SW 1,2 ASSIGN	7	MIDI(FILTERING/EXCLUSIVE)
	3	SAVE TO RAM CARD	8	MIDI DATA TRANSFER
	4	LOAD FROM CARD	9	WHEEL ASSIGN
VOICE PARAMETER	1	PITCH	01	PORTAMENTO
	2	PITCH EG	02	CONTROL WHEEL
	3	OSC1 WAVEFORM	03	VELOCITY
	4	OSC2 WAVEFORM	04	AFTER TOUCH
	5	OSC1 TIMBRE EG	05	ASSIGN MODE
	6	OSC2 TIMBRE EG	06	VOICE NAME
	7	OSC1 AMPL EG	07	OCTAVE
	8	OSC2 AMPL EG		
	9	MODULATION GENERATOR		
	COMBI PARAMETER	0	CONTROLLER	4
1		MODULATION GENERATOR	5	RECEIVE CHANNEL
2		PAN	6	INTERVAL/DETUNE
3		VOLUME	7	KEY SPLIT/OCT SHIFT

モード & ファンクション

ここでは707の機能や操作について詳しく説明しています。各モードでの働きやディスプレイ表示などについてもここで説明します。707を充分に使いこなしていただくためにもよくお読みになってください。各モードでの説明は“勉強しましょう”と“操作しましょう”に分かれています。“勉強しましょう”では、そのモードでの機能や必要な知識について述べてあり、“操作しましょう”では、基本的なスイッチ操作とLCD表示について述べてあります。

【各モードでの機能と基本操作】 (スイッチ) = このモードで使用するスイッチ



上図は各モードでの機能と、そのモードに入った後に使用するスイッチの概略です。以降、詳しい機能や具体的な操作法、LCD表示について述べていきます。

1. プログラムモード

【このモードでの機能】

- どの音色プログラムで演奏するのかが選べます。
- SINGLE, LAYER, DOUBLE, MULTI(これらをキーボードモードと呼びます)のどの方法で演奏するのかが選べます。
- パフォーマンスエディターによって音色を変化させることができます。

勉強しましょう

●プログラムについて

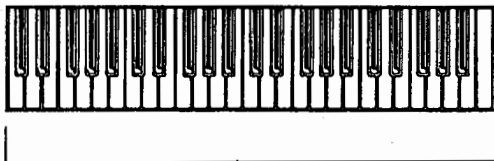
707は本体に00~99までの100音色をメモリーすることができます。これらをインターナルプログラムと呼びます。さらにオプションのRAMカード(MCR-02など)によるプログラム(エクスターナルプログラム)の増設により、大容量のプログラムメモリーも可能です。

●キーボードモードについて

707はSINGLE, LAYER, DOUBLE, MULTIと呼ばれる4つの方法で演奏を行うことができ、これらをキーボードモードと呼びます。キーボードモードの選択はプログラムモードに入っているときにのみ可能です。

SINGLE(シングル):

本体内部またはカードにメモリーされている00~99番(この番号をプログラムナンバーと呼びます)のプログラムの中から1つ選んで演奏することができます。このとき同時に8音(ボイス)を発音させることができます。



全ての鍵盤に1つのプログラムが割り当てられます

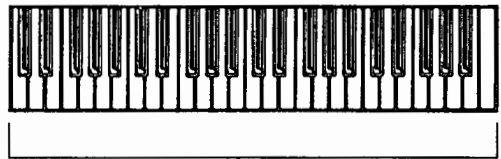
LAYER(レイヤー):

キーボードモード=レイヤーは、2つのグループで構成され、2つのプログラムを同時に重ねて発音させることができます。

例)グループ1にピアノ系の音色プログラムを、グループ2にストリングス系の音色プログラムを割り当てると、ピアノコンチェルト風

の演奏が楽しめます。このときは、同時に4音まで発音させることができます。

注:グループ1、グループ2の音色それぞれにプログラムされているアサインモードが異なる場合には、グループ2のアサインモードはグループ1の設定に従います。例えば、グループ1の音色のアサインモードがポリの場合はグループ2の音色のアサインモードがユニゾンになっても演奏時にはポリになります。



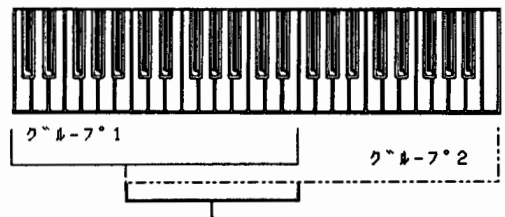
・グループ1:・・・ピアノ(4ボイス)
・グループ2:・・・ストリングス(4ボイス)

DOUBLE(ダブル):

キーボードモード=ダブルは2つのグループで構成され、グループ1をキーボードの低域部分に、グループ2を高域部分に割り当てます。グループ1の発音範囲の上限と、グループ2の発音範囲の下限を自由に設定でき、単にキーボードを2つに分けるだけのスプリット効果では得られない多彩なプレイが可能です。さらにグループ1、2それぞれの音程をオクターブ単位で変えたり、グループごとの発音ボイス数を自由に設定できます。

例)グループ1にプラスのプログラム、グループ2にフルートのプログラムを割り当てます。鍵盤の中央でグループ1とグループ2を重ね合わせることも可能です。フルートの発音レンジが高すぎた場合はオクターブシフトを使って希望する音程にセットします。各グループのボイス数は、合計8音の範囲内で自由に設定できます。下図ではプラスが2ボイス、フルートが6ボイスで演奏できるように設定してあります。(オクターブシフト、各グループの発音数や発音範囲は後述のコンビパラメーターで設定します。)

・グループ1:・・・プラス(2ボイス)
・グループ2:・・・フルート(6ボイス)



プラスとフルートをミックスしてプレイできる

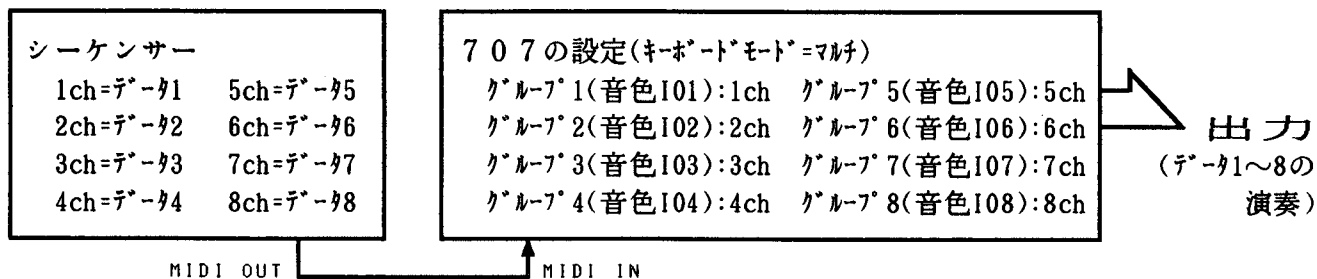
MULTI(マルチ):

キーボードモード=マルチは707をマルチ音源として用いるときのキーボードモードです。KORG・SQ-8やSQD-8のようなマルチトラックシーケンサー(自動演奏装置)をMIDIケーブルで707のMIDI INに接続して演奏します。

707のキーボードモードマルチは、8つのグループ(グループ1~8)からなり、グループごとに音色、

及びMIDIチャンネルを設定できます。つまり、最大8種類のMIDIチャンネルで送られてきた演奏データに対し、同時に8種類までの音色で演奏ができます。ただし、707の同時発音数は8音ですので、8音色同時に演奏する場合は、それぞれのグループの同時発音数は1音ずつになります。

次に、707をマルチ音源として用いる時の例を示します。



- ①シーケンサーから1ch(チャンネル)~8chで、8種類の演奏データが送られてくるものとします。この演奏データをそれぞれ演奏データ1~8としましょう。
- ②707のセッティングは、グループ1~8の音色をそれぞれ101~08、受信チャンネルを1ch~8chとします。
- ③シーケンサーからのデータが、707のMIDI INに入力されると、グループ1は受信チャンネルが1chですので、演奏データ1を受信し、グループ1の音色である音色101で演奏します。同様にしてそれぞれのグループの音色がそれぞれの演奏データで演奏されます。

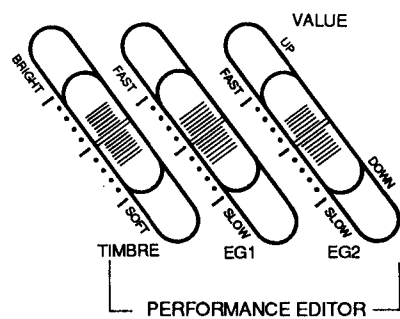
各グループでの受信チャンネル、同時発音数は後述のコンビパラメーターで設定します。P.24コンビパラメーター4.NO OF VOICES、5.RECEIVE CHANNELを参照してください。

注:どのキーボードモードでも、ROMカードまたはRAMカードがセットされている場合は、インターナルプログラム100音色とエクスターナルプログラム100音色(BANK1)の計200音色の中からプログラムを選ぶことができます。

- パフォーマンスエディターについて
707にはパフォーマンスエディターという、一時的に音色を変えることのできるスライダーがあります。これによってプレイ中に、より効果的な表現を行うことができ、またこのスライダーで作った音色をメモリーすることもできます。パフォーマンスエディターには、TIMBRE、EG1、EG2がありこれらの働きは以下の通りです。
TIMBRE:音色を変化させます。このスライダー

- を上にも動かすと明るく鋭い音色に、下に動かすとソフトな音色になります。
- EG1:スライダーを上にも動かすとOSC1のEGのスピードが全体的に早く、下に動かすと全体的に遅くなります。(OSC1のTIMBRE EG,AMPL EGのスピードが変化する。)
- EG2:スライダーを上にも動かすとOSC2のEGのスピードが全体的に早く、下に動かすと全体的に遅くなります。(OSC2のTIMBRE EG,AMPL EGのスピードが変化する。)

パフォーマンスエディターによって音色を変化させることができるのは、プログラムモードまたはコンビネーションモードに入っているときです。



操作しましょう

- プログラムモードに入るには?
PROGRAMスイッチを押すと、PROGRAMのLEDが点灯し、プログラムモードに入ります。また電源立ち上げ後は自動的にプログラムモードに入ります。

〈PROGRAMスイッチを押してプログラムモードに入るとき〉

操作



100 Tine Piano
SGL

〈電源立ち上げ時〉

操作



*** KORG 707 ***
Performing Synth

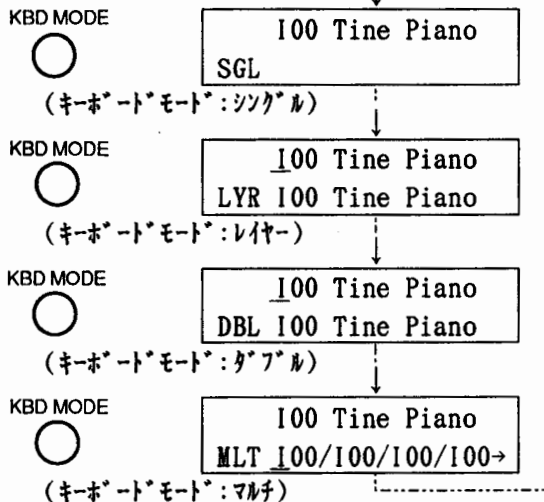
↓ (自動的に変わる)

100 Tine Piano
SGL

● キーボードモードを選ぶには？

プログラムモードでKBD MODE(キーボードモード)スイッチを押していくと、キーボードモードはSINGLE→LAYER→DOUBLE→MULTIの順に変わります。

操作



● プログラムを選ぶには？ (プログラムの呼び出し)

☆ キーボードモード=シングルするとき

1. CARDスイッチを押して本体内のプログラムを呼び出すかカード内のプログラムを呼び出すかを選択します。

I = インターナル……本体内のプログラム
E = エクスターナル……カード内のプログラム

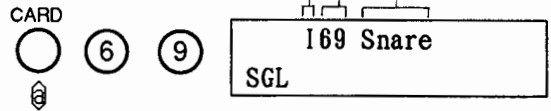
CARDのLED(ランプ)が点灯しているときはエクスターナルプログラムを、LEDが消えているときにはインターナルプログラムを呼び出すことができます。(このとき呼び出されるエクスターナルプログラムは、カードのBANK1にメモリーされている00~99までの音色です。)

注: エクスターナルのプログラムはメモリーカードがカードスロットにセットされているときのみ呼び出すことができます。

2. テンキーで呼び出したいプログラムナンバー2桁(00~99)を入力します。

例) インターナルプログラムの69番を選びます。

操作



- Ⓔ CARDスイッチのLEDが消えている状態にします。
- Ⓕ インターナルプログラムであることを示します。エクスターナルプログラムを選んだときには“E”と表示されます。
- Ⓖ プログラムナンバーを示します。
- Ⓗ プログラムネーム

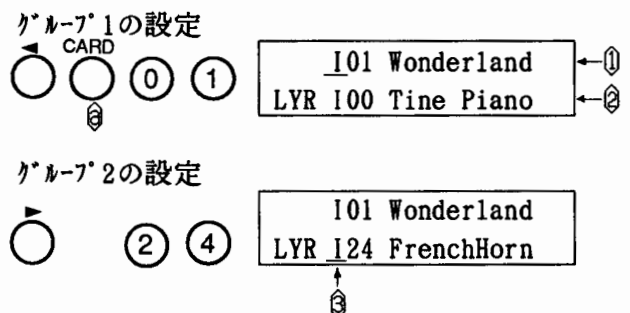
3. UP/YES, DOWN/NOキーまたはフットスイッチによって、I 00~99またはE00~99の範囲で連続的にプログラムを呼び出すこともできます。フットスイッチは、PROGRAM UPあるいはPROGRAM DOWNに設定されている場合に使用できます。(詳しくはP.27ファンクションモード 2. “FOOT SW 1,2 ASSIGN”を参照してください)

☆ キーボードモード=レイヤーのとき

1. CURSORキーによってカーソルを上下に移動させ、グループ1またはグループ2のどちらのプログラムを設定するのかが選択します。“◀”を押すとグループ1、“▶”を押すとグループ2が選択されます。
2. シングルの時と同様に、CARDスイッチによりインターナル/エクスターナルの選択をします。
3. テンキーで呼び出したいプログラムナンバー2桁を入力します。

例) グループ1にインターナルプログラムの01番、グループ2にインターナルプログラムの24番を設定します。

操作



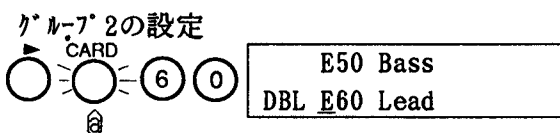
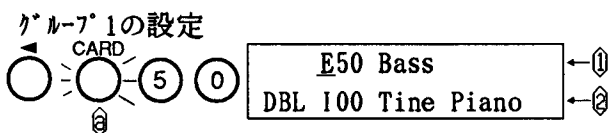
- ④ CARDスイッチのLEDが消えている状態にします。
- ① グループ 1
- ② グループ 2
- ③ カーソル

4. シングルの時と同様にUP/YESキー、DOWN/NOキーまたはフットスイッチによって連続的にプログラムを選ぶこともできますが変化するのは現在カーソルのあるグループのみです。

☆キーボードモード=ダブルのとき
レイヤーと同様の操作でプログラムを選びます。

例)グループ1(低音域)にエクスターナルプログラムの50番、グループ2(高音域)にエクスターナルプログラムの60番を設定します。

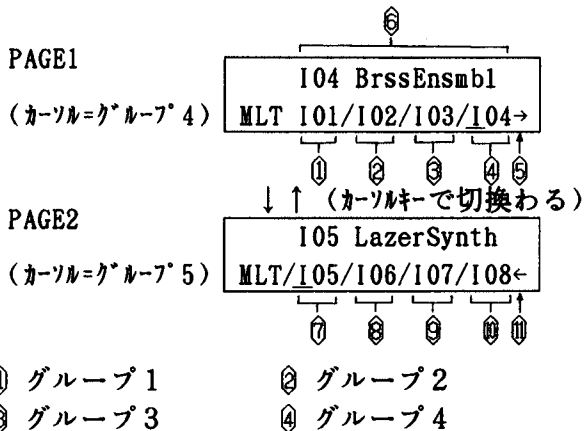
操作



- ④ CARDスイッチのLEDが点灯している状態にします。
- ① グループ 1
- ② グループ 2

☆キーボードモード=マルチのとき

1. CURSORキーの“▶”または“◀”によってカーソルを左右に移動させ、どのグループのプログラムを設定するかを選びます。このときLCD表示は下行の左端よりグループ1~4を示します。(この画面をPAGE1と呼びます)またグループ4(右端)にカーソルがある状態からさらに“▶”を押すとLCDの画面が切り変わり、グループ5~8が現れます。こちらの画面をPAGE2と呼びます。PAGE2のグループ5にカーソルがある状態で“◀”を押すとPAGE1に戻ります。



- ④ PAGE1であることを示します。
- ⑥ カーソルのあるグループのプログラムナンバーおよびプログラムネーム
- ⑦ グループ 5 ⑧ グループ 6
- ⑨ グループ 7 ⑩ グループ 8
- ⑪ PAGE2であることを示します。

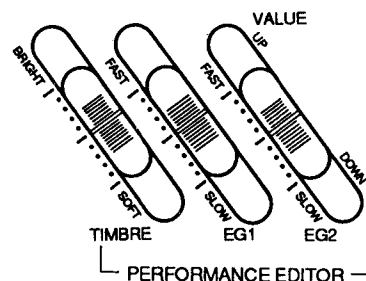
2. 他のキーボードモードと同様にCARDスイッチによってインターナル/エクスターナルの選択をします。
3. テンキーでそのグループに割り当てるプログラムナンバー 2桁を入力します。
4. UP/YESキー、DOWN/NOキーまたはフットスイッチによって連続的にプログラムを呼び出していくこともできます。

●パフォーマンスエディターによって音色を変化させるには?

☆TIMBREのスライダーにより音色の明るさを変えることができます。

☆EG1、EG2のスライダーによりOSC1、OSC2のTIMBRE EG、AMPL EGのスピードを変化させます。(P. 16ボイスパラメーターモード“TIMBRE EG、AMPL EG”を参照してください。)

注)EG2のスライダーはバリュースライダーと共通になっています。プログラムモード、またはコンビネーションモードに入っているとき(PROGRAMまたはCOMBINATIONのLEDが点灯しているとき)はEG2のスライダーとして働き、その他のモードではバリュースライダーとして働きます。



パフォーマンスエディターには次の2通りの使い方があります。

- ① プレイ中により効果的な演奏をするために、一時的に音色を変えます。変化させた音色はプログラムチェンジや再度そのプログラムを呼び出すことによって、スライダーの位置に関係なく元の状態に戻ります。このためメモリーされた音色を壊すことなくプレイ中に自由に音色を変えて演奏することができます。

② スピーディーかつ効果的に音色のエディットを行います。

パフォーマンスエディターによって変更された音色はメモリーすることもできます。このためボイスパラメーターにおいて音色のエディットを行うのに比べ、よりスピーディーで効果的に音作りが行えます。ただしパフォーマンスエディターによる音色の変化は一時的なものですので、エディット後その音色をメモリーするために“ライト”(P.32プログラムライト参照)を行ってください。(キーボードモード=シングルするとき)

2. コンビネーションモード

【このモードでの機能】

- コンビネーションプログラムを呼び出します。
- パフォーマンスエディターによって音色を一時的に変化させることができます。(ただし、このモードではパフォーマンスエディターによって作りだした音色をメモリーさせることはできません。)

注1: このモード内ではキーボードモード及び各グループに割り当てられているプログラムナンバーを変更することはできません。これらを変更するときは、プログラムモードに移ってください。

注2: キーボードモード=マルチで作られたコンビネーションを演奏する際に、各グループの音色のプログラムチェンジを行うときは、プログラムモードに移っておいてください。

勉強しましょう

● コンビネーションプログラムについて

707では、P.8 “キーボードモードについて”で述べたように、キーボードモードを選択することによって、LAYER, DOUBLE, MULTIのように複数のプログラムを組み合わせる演奏することができます。このとき組み合わせるプログラムナンバー、キーボードモードの種類、コンビパラメーターの各設定値(P.22コンビパラメーター参照)をまとめてメモリーしたものをコンビネーションプログラムといいます。707本体に、100

種類の音色のプログラムとは別に10種類までのコンビネーションプログラムを記憶させることができます。RAMカードにも同様に、1バンクあたり100種類の音色プログラムと10種類のコンビネーションプログラムを記憶させることができます。

本体に記憶させたものを“インターナル・コンビネーションプログラム”といい、メモリーカードのものを“エクスターナル・コンビネーションプログラム”といいます。

また、キーボードモード=シングルもコンビネーションプログラムの一つとして扱い、記憶しておくことができます。

本体(メモリー)	カード(1バンク当り)
100音色 10コンビネーション プログラム	100音色 10コンビネーション プログラム

コンビネーションプログラム 0番

- キーボードモードの種類 (SINGLE, LAYER, DOUBLE, MULTI)
- 使用するプログラムナンバー
- コンビパラメーターの各設定値

コンビネーションプログラム 9番

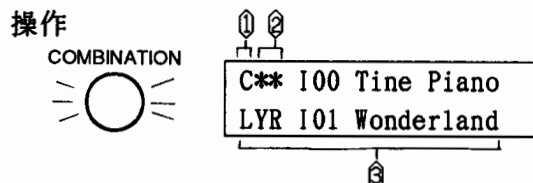
- キーボードモードの種類 (SINGLE, LAYER, DOUBLE, MULTI)
- 使用するプログラムナンバー
- コンビパラメーターの各設定値

操作しましょう

● コンビネーションモードに入りコンビネーションプログラムを呼び出すには?

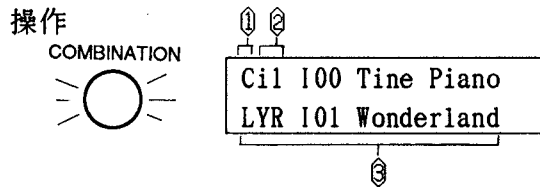
1. “COMBINATIONスイッチ”を押すと、COMBINATIONのLEDが点灯しコンビネーションモードに入ります。

★電源投入後はじめてコンビネーションプログラムを呼び出した場合、次のような表示になります。



- ① C=コンビネーションプログラムであることを示します。
- ② コンビネーションプログラムナンバーの入力待ちの状態であることを示します。この後、I(インターナル)0~9、E(エクスターナル)0~9の中から選択します。
- ③ ①②以外の表示(キーボードモードの種類および使用されているプログラム)はコンビネーションモードに入る前のものが示されます。

★電源投入以降、コンビネーションモードに入るのがはじめてでない場合は次のような表示になります。



- ① C=コンビネーションプログラムであることを示します。
- ② 前回コンビネーションモードを抜けた時のコンビネーションナンバーが表示されます。

i はインターナルのコンビネーションプログラムであることを意味しますが小文字になっているのは、このとき設定されているコンビネーションが前回メモリーされたコンビネーションプログラムとは内容が異なるということを意味します。(これは、いままでエディットしていたプログラムが仮にインターナルコンビネーションプログラムの1番に割り当てられるためです。)パラメーターを動かして、元に戻しただけでもエディットしたと見なされ、小文字になります。

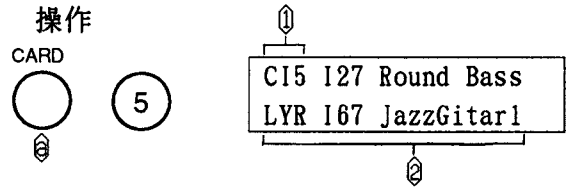
- ③ ①②以外の表示(キーボードモードの種類および使用されているプログラム)はコンビネーションモードに入る前のものが示されます。

2. インターナルあるいはエクスターナルの選択を行います。
プログラムの呼び出しと同様に、CARDSスイッチによってインターナル、エクスターナルのどちらのコンビネーションプログラムを呼び出すのかを選択します。CARDスイッチのLEDが点灯しているときはエクスターナルを、LEDが消えているときはインターナルのコンビネーションプ

ログラムを呼び出すことができます。

3. テンキーで呼び出したいコンビネーションプログラムナンバー(0~9)を入力します。

例: インターナルコンビネーションプログラムの5番を呼び出します。



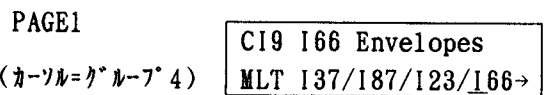
- ③ CARDスイッチのLEDが消えている状態にします。
- ① インターナルコンビネーションプログラムの5番を呼び出していることを示します。
- ② 呼び出されたコンビネーションプログラムのキーボードモードと、使用されているプログラムを表示します。

4. UP/YES, DOWN/NOまたはフットスイッチによって、I 0~9、E 0~9の範囲で連続的にコンビネーションプログラムを呼び出すこともできます。

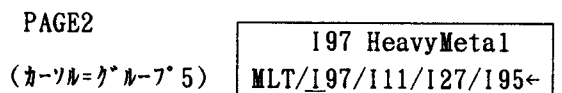
(P. 27 ファンクションモード“FOOT SW 1, 2 ASSIGN”を参照してください。)

●コンビネーションモードでPAGEを切替えるには?

キーボードモードがマルチでつくられているコンビネーションプログラムのLCD表示は、PAGE 1, 2に分かれています。コンビネーションモード内では各グループに割り当てるプログラムの変更はできないため通常カーソルは表示されませんが、マルチでつくられたコンビネーションを呼び出した場合は各グループに使われているプログラムのプログラムネームの確認とPAGEの切換えのために便宜上カーソルが表示されます。他のモードと同様にCURSORキーでカーソルを左右に移動させPAGEの切換えを行います。



↓ ↑ (カーソルキーで切替わる)



3. パラメーターモード

【このモードにおける機能】

- ・ボイスパラメーターにおいて音色プログラムをつくるための種々の要素(パラメーター)を設定します。
- ・コンビパラメーターにおいて、コンビネーションプログラムに関する種々の要素を設定します。

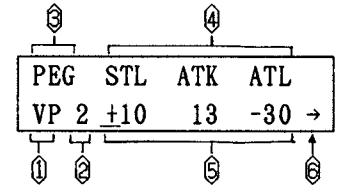
注：プログラムモードからボイスパラメーターに入ると、パフォーマンスエディターによる音色はキャンセルされます。

1つのプログラムは、種々のパラメーターの設定によってつくられます。音色プログラムをつくるためのパラメーターをボイスパラメーターといいます。

ボイスパラメーターには、1～9の音色に関わるパラメーターグループと、01～07のプログラムネームをつくったりコントロールホイールの効果を設定したりするパラメーターグループがあります。

なお、ボイスパラメーターに入っているときは、LCDの左端に“V.P.”と表示されます。

表示例



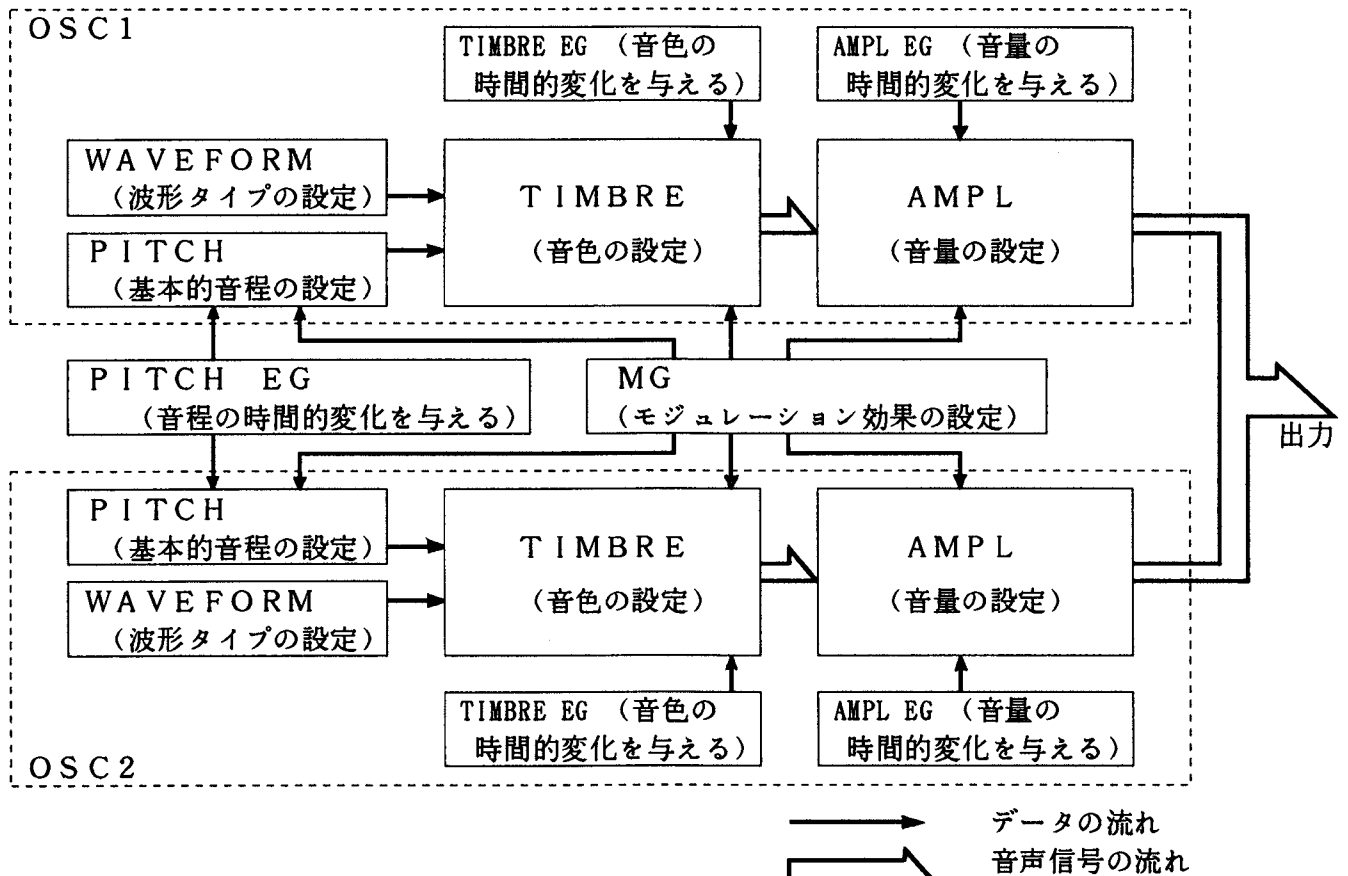
- ① ボイスパラメーターにいることを示します。
- ② パラメーターグループナンバー
- ③ パラメーターグループネーム
- ④ パラメーターネーム
- ⑤ パラメーターの値
- ⑥ 次にPAGE 2があることを示します。

I ボイスパラメーター

勉強しましょう

●ボイスパラメーターについて

<オシレーターの基本構成>



●オシレーター(OSC)の基本構成について

707はOSC1、OSC2の2系統のオシレーターを持っており、各オシレーターは前頁の図のようロックに分解できます。各ブロックがボイスパラメーターで設定した値に応じて作動することにより、種々の音色が作られます。

●各パラメーターの機能、数値およびLCD表示

1、PITCH(ピッチ)

PITCH	OSC1	OSC2	DTN
VP	1	0.5	2 0

OSC1(オシレーター-1):(0.5~15)

OSC2(オシレーター-2):(0.5~15)

各オシレーターの基本となるピッチを設定します。1=8フィートを基準とし、数値を大きくするほど高いピッチが得られます。8フィートの時A4=440Hzになります。(A4は707では上から2番目のAの音です。)

0.5	167フィート(基準ピッチの1/2)
1	87フィート(基準ピッチ)
2	47フィート(基準ピッチの2倍)
3	27フィート(基準ピッチの3倍)
4	27フィート(基準ピッチの4倍)
⋮	⋮

DTN(ディチューン):(0~3)

OSC1、2間のチューニングをわずかにずらすことでディチューン効果が得られます。0で効果がなく、3で効果が最大になります。

2、PITCH EG (ピッチEG)

PAGE1

PEG	STL	ATK	ATL
VP	2 ±10	13	-30 →

PAGE2

DEC	REL	RLL
-4	10	-50 ←

- ① 次に別のPAGEがあることを示します。(CURSORキーによってPAGEを切替えます。)
- ② 前に別のPAGEがあることを示します。

オシレーターの音程を時間的に変化させるパラメーターグループです。レベルは-63~+63の範囲で設定することができ、0で鍵盤の位置の音程となります。タイムは0から63の範囲で設定

でき、0で変化の時間が最も早く63で最も遅くなります。PITCH EGの効果を必要としない場合にはレベルをすべて0に設定します。

STL(スタートレベル):

鍵盤を押した瞬間の音程です。

ATK(アタックタイム):

STLからATLまでの到達時間です。

ATL(アタックレベル):

アタックの到達する音程です。

DEC(ディケイタイム):

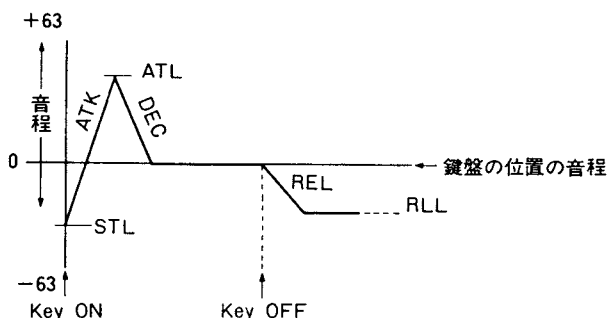
ATLから鍵盤位置の音程までの到達時間です。

REL(リリースタイム):

鍵盤を離した後、RLLまでの到達時間です。

RLL(リリースレベル):

鍵盤を離した後にリリースの到達する音程です。



3、OSC1 WAVEFORM(オシレーター1 ウェイブフォーム)

PAGE1

WF1	TYPE	SPCT	RING
VP	3	4	8 3 →

PAGE2

LIMIT	KBD
0	N 2 ←

オシレーター1の波形を組み立てるパラメーターグループです。

TYPE(タイプ):(1~4)

波形の基本となるタイプを4つの中から選択します。これによって後で出てくるTIMBRE EGのTIMBの設定に応じて、どの様に波形が変化するか決定します。

タイプ1: 鋸歯状波系の波形

タイプ2: 矩形波系の波形

タイプ3: ブライトな感じの鋸歯状波派系の波形

タイプ4: ブライトな感じの矩形波系の波形

WAVE FORM				TIMB
タイプ 1	タイプ 2	タイプ 3	タイプ 4	
				99
				0

SPCT(スペクトラム):(1~8)

基本の波形に対する倍音成分の設定を行います。1で最も低い周波数の倍音、8で最も高い周波数の倍音を与えることができます。

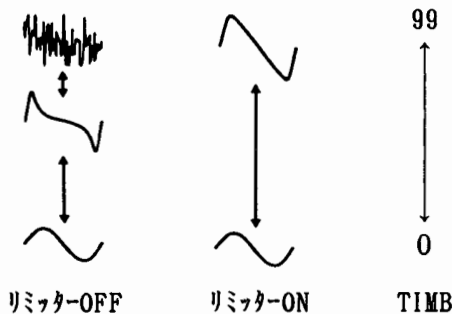
RING(リング):(0~3)

基本波形に対して、リングモジュレーションのようなエフェクト効果が得られます。0で効果がなく、1~3でそれぞれ異なった効果を得ることができます。(リングモジュレーションとは不規則な倍音を加えることによって、金属的なサウンドを作り出す効果のことをいいます。)

LIMIT(リミッター):(ON/OFF)

TIMBRE EGやコントロールホイール、ペロシティー、アフタータッチで音色の明るさを変化させたときの変化の幅に対するリミッターのON/OFFの設定を行います。OFFにするとノイズがかかった癖のある波形まで変化し、タイプ3、4ではノイズになってしまいます。このときONにすると、ノイズになる手前までの変化になります。

例) タイプ3の場合



KBD(キーボードトラック):(0~3)

音色の明るさを鍵盤の位置にしたがって変化させる場合の設定を行います。0から3まで設定できますが、3に近づくほど高音部では音色が明るく、低音部ではがやわらかくなります。

4、OSC2 WAVEFORM(オシレーター2 ウェイブフォーム)

PAGE1

WF2	TYPE	SPCT	RING
VP 4	XMD	7	3

PAGE2

LIMIT	KBD
OFF	2

オシレーター2の波形を組み立てるパラメーターグループです。基本的な機能はOSC1 WAVEFORMと同じですが、TYPEが以下のようになります。

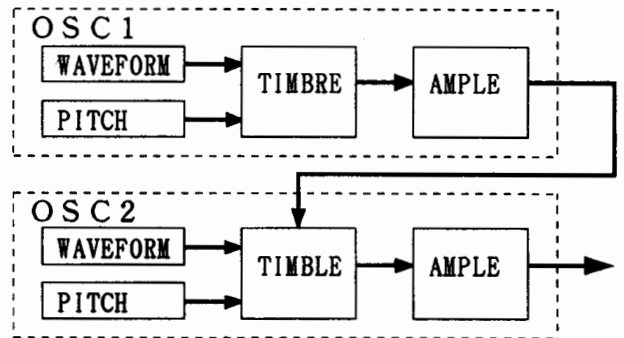
タイプ1: 鋸歯状波系の波形

タイプ2: 矩形波系の波形

XMOD:(クロスモジュレーション)

オシレーター1の出力でオシレーター2に変調をかけるモード(この場合オシレーター1は出力されません。)

TYPEをXMODに設定した場合、オシレーター1の全てのパラメーターが音色を変化させるために使われます。例えばオシレーター1の音量(OSC1 AMPL EGのLEVEL)を上げても全体の音量は変わらずに音色が明るくなります。



5、OSC1 TIMBRE EG(オシレーター1 ティンバーEG)

PAGE1

TEG1	TIMB	INT	KBD
VP 5	56	15	3

PAGE2

ATK	DEC	SUS	REL
_0	5	5	10

オシレーター1の音色の明るさを時間的に変化させるパラメーターグループです。TIMBREは従来のシンセではVCFに相当します。)

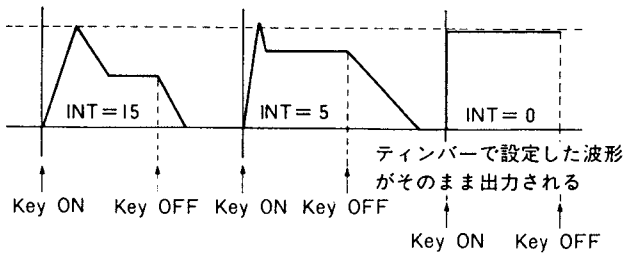
TIMB(ティンバー):(0~99)

波形の変化の幅を設定します。0で正弦波となり、値が大きくなるほど波形が鋭く、音色は明るくなります。99では、ノイズがかかった音色になります。特にタイプ3、4の波形では完全

にノイズになってしまいますが、OSC1 WAVEFORMのパラメーターグループでリミッターをONにしておくと、ノイズまでの変化にはなりません。(P.15 OSC1 WAVEFORM参照)

INT(インテンシティ):(0~15)

TIMBRE EGのかかり具合を設定します。0でEGの効果がなく常にTIMBで設定した音色の明るさがそのまま出力されます。15でEGの効果が最大になります。



KBD(キーボードトラック):(0~3)

TIMBRE EGのスピードを鍵盤の位置にしたがって変化させます。値を大きくするにしたがって高音部ではEGのスピードが速くなり、低音部では遅くなります。

ATK(アタックタイム):(0~31)

鍵盤を押した瞬間から、波形が正弦波(柔らかい音色)からティンバーで設定した音色の明るさまで変化する時間です。つまり音色が次第に明るくなっていき、それが最大になるまでの時間を設定します。0で最も速く、31で最も遅く変化します。

DEC(ディケイタイム):(0~31)

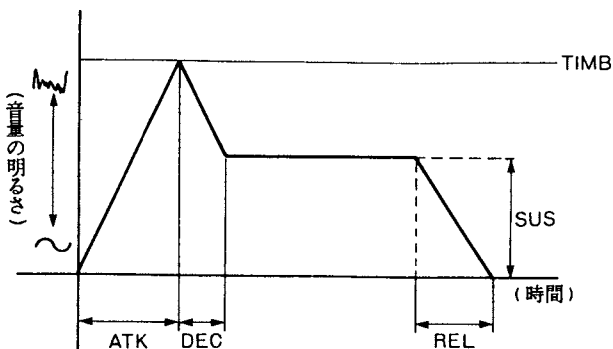
ティンバーで設定した音色の明るさからSUSで設定する明るさまで変化する時間です。

SUS(0~15)(サステーンレベル):

ディケイ終了後の波形(音色の明るさ)を設定します。0で正弦波(最も柔らかい音)、15でティンバーで設定した明るさになります。

REL(リリースタイム):(0~15)

鍵盤を離した後、正弦波(柔らかい音)まで変化する時間です。0で変化の時間が最も速く、15で最も遅くなります。



6、OSC2 TIMBRE EG(オシレーター2 ティンバーEG)

PAGE1

TEG2	TIMB	INT	KBD
VP 6	40	10	1 →

PAGE2

ATK	DEC	SUS	REL
0	5	5	10 ←

オシレーター2の音色の明るさを時間的に変化させるパラメーターグループです。基本的な機能はOSC1 TIMBRE EGと同じです。

7、OSC1 AMPL EG(オシレーター1 アンプEG)

PAGE1

AEG1	LEVL	KBD
VP 7	63	1 →

PAGE2

ATK	DEC	SUS	REL
30	10	10	0 ←

オシレーター1の音量を時間的に変化させるパラメーターグループです。

LEVL(レベル):(0~63)

基本的な音量の設定を行います。値に比例して音量が大きくなります。

KBD(キーボードトラック):(0~3)

AMPL EGのスピードを鍵盤の位置にしたがって変化させます。値を大きくするにしたがって高音部ではEGスピードが速くなり、低音部では遅くなります。

音色の設定によっては和音で演奏したときに音が歪むことがあります。その場合にはOSC1 AMPL EG、OSC2 AMPL EGのレベルを下げてください。

ATK(アタックタイム):(0~31)

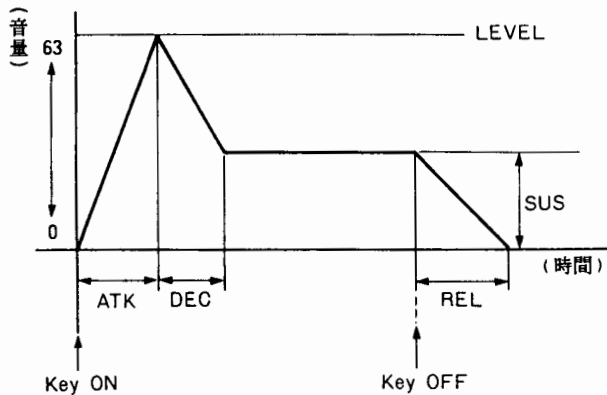
打鍵してからLEVLで設定した音量まで達する時間を設定します。値が大きいほど時間が長くなります。

DEC(ディケイタイム):(0~31)

LEVLで設定した音量からSUSで設定した音量まで変化する時間です。0で変化する時間が最も短く31で最も長くなります。

SUS(サステーンレベル):(0~15)

ディケイ終了後、鍵盤を押している間鳴り続ける音量を設定します。値に比例して音量が大きくなります。



REL(リリースタイム):(0~15)

鍵盤を離れた後、音が消えるまでの時間です。0で音が消えるまでの時間が最も短く、15で最も長くなります。

8、OSC2 AMPL EG(オシレーター2 アンプ EG)

PAGE1	AEG2	LEVL	KBD
	VP 8	50	0 →

PAGE2	ATK	DEC	SUS	REL
	21	15	10	3 ←

オシレーター2の音量を時間的に変化させるパラメーターグループです。基本的な機能は、OSC1 AMPL EGと同じです。

9、MODULATION GENERATOR(モジュレーションジェネレーター)

PAGE1	MG	WF	FREQ	DLY
	VP 9	SQR	30	15 →

PAGE2	PTCH	T/A	TSEL	ASEL
	30	50	1+2	OFF ←

ピッチに対するモジュレーション(ビブラート)、音色に対するモジュレーション(ワウワウ)、音量に対するモジュレーション(トレモロ)の効果を設定するパラメーターグループです。

WF(ウェーブフォーム):

モジュレーションジェネレーターはLFO(低周波発振器)と呼ばれる発振器を持っています。各種のモジュレーションはこのLFOが作り出す波形に沿って効果がかかるようになっていきます。このパラメーターではLFOの波形を次の4種類の中より選びます。

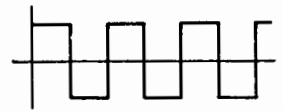
TRI:三角波



SAW:鋸歯状波



SQR:矩形波



S/H:サンプル&ホールド
(ランダムな波形)



FREQ(フリケンシー):(0~63)

LFOの周波数(フリケンシー)を設定します。0~63の範囲で設定でき、値に比例してモジュレーション効果のスピードが速くなります。

DLY(ディレイタイム):(0~31)

鍵盤を押してからモジュレーションの効果がかかるまでの時間です。0で打鍵後すぐにモジュレーションがかかり、値を大きくするほど効果がかかるまでの時間が長くなります。

PTCH(ピッチ):(0~63)

ビブラート効果の深さを設定します。値を大きくするほど効果が深くなります。

T/A(ティンバー/アンプ):(0~63)

ワウワウ/トレモロ効果の深さを設定します。

TSEL(ティンバーセレクト):

ワウワウ効果をかけたいオシレーターを選択します。

- OFF...効果がかかりません。
- 1 ...オシレーター1のみに効果がかけられます。
- 2 ...オシレーター2のみに効果がかけられます。
- 1+2...オシレーター1、2両方に効果がかけられます。

ASEL(アンプセレクト):

トレモロ効果をかけたいオシレーターを選択します。

- OFF...効果がかかりません。
- 1 ...オシレーター1のみに効果がかけられます。
- 2 ...オシレーター2のみに効果がかけられます。
- 1+2...オシレーター1、2両方に効果がかけられます。

01、PORTAMENTO(ポルタメント)

PORTAMENT	MODE	TIME
VP01	_2	60

ポルタメント効果の設定を行うパラメーターグループです。

MODE(モード):

ポルタメントのかかり方を設定します。アサ

インモードの設定によって下図のような効果が得られます。(P. 20 ASSIGN MODEをあわせて参照してください。)

	アサインモード ホリ	アサインモード エリソソ
MODE1	ランダムにポルタメント効果がかかります	常に前に押された鍵盤の音程から効果がかかります
MODE2	一番最後に押された鍵盤の音程から効果がかかります	鍵盤を押したまま他の鍵盤を押したとき(レガート)のみ効果がかかります

TIME(タイム):(0~63)

ポルタメントのスピードを設定します。0で最も速く、63で最も遅くなります。(ポルタメント効果をかける時は、パネルのPORTAMENTOスイッチをONにしてください。)

02、CONTROL WHEEL(コントロールホイール)

PAGE1

WHL BEND:PITCH 0.5
VPO2 TIMBRE 3 →

PAGE2

MOD:P. INT_3 SPEED 2
T. INT 2 ←

BEND(ベント)、MOD(モジュレーション)の2本のコントロールホイールの効果の大きさを設定します。このパラメーターグループのLCD表示ではパラメーターの右側にその値が表示されます。

BEND PITCH(ベントピッチ):(0~12)

ベンドホイールによるピッチの可変幅を設定します。1ステップが半音=100セントにあたり、12にすると±1オクターブのピッチシフトが可能です。また0.5にすると半音の1/2のピッチシフトになります。

BEND TIMB(ベントティンバー):(0~3)

ベンドホイールによる音色の明るさの変化幅を設定します。値を大きくするほど変化も大きくなります。

MOD P. INT(モジュレーションピッチインテンシティー):(0~3)

モジュレーションホイールによるビブラート効果の深さの可変幅を設定します。値を大きくするほど深いビブラートがかかります。

MOD T. INT(モジュレーションティンバーインテンシティー):(0~3)

モジュレーションホイールによるワウワウ効果の深さの可変幅を設定します。値を大きくするほど深い効果がかかります。

(ただし、ホイールパラメーター9、TSELがOFFになっている場合にはワウワウ効果はかかりません。)

MOD SPEED(モジュレーションスピード):(0~3)

モジュレーションホイールによるモジュレーション(ワウワウ、ビブラート)スピードの可変幅を設定します。値を大きくするほどホイールを回したときにスピードの変化が激しくなります。

また、音色に元々トレモロ効果がかかっていたときにはトレモロのスピードも同様に変化します。

03、VELOCITY(ベロシティ)

VEL TEG1_3 TEG2 0
VPO3 AEG1 2 AEG2 2

ベロシティとは、鍵盤を叩く強さ(タッチセンス)のことです。ここではタッチセンスの効き具合を設定します。0で効果がなく、鍵盤を弾くタッチの強弱に関わらず同じ音量や音色で発音されます。値が大きくなるほどタッチの強弱による変化が大きくなります。

TEG1(OSC1 TIMBRE EG):(0~7)

オシレーター1の、タッチセンスによる音色の明るさの可変幅を設定します。

TEG2(OSC2 TIMBRE EG):(0~7)

オシレーター2の、タッチセンスによる音色の明るさの可変幅を設定します。

AEG1(OSC1 AMPL EG):(0~7)

オシレーター1の、タッチセンスによる音量の可変幅を設定します。

AEG2(OSC2 AMPL EG):(0~7)

オシレーター2の、タッチセンスによる音量の可変幅を設定します。

04、AFTER TOUCH

AFTR PMOD_2 TIMB 2
VPO4 AMP1 2 AMP2 2

アフタータッチとは、鍵盤を押した後さらに強く押し込むことによって音色に効果を与えることをいいます。ここではアフタータッチの効果の大きさを設定します。0で効果がなく、値を大きくするほど効果が大きくなります。

PMOD(ピッチモジュレーション):(0~3)

ピッチモジュレーション(ビブラート効果)の、アフタータッチによる変化の幅を設定します。

TIMB(ティンバー):(0~3)

音色の(明るさ)、アフタータッチによる変化の幅を設定します。値を大きくするほど音色

の変化が大きくなります。

AMP1(0~3)(OSC1アンプレベル):

オシレーター1の音量の、アフタータッチによる変化の幅を設定します。

AMP2(0~3)(OSC2アンプレベル):

オシレーター2の音量の、アフタータッチによる変化の幅を設定します。

05、ASSIGN MODE(アサインモード)

POLYのとき

ASS MODE
VP05 POLY

UNISONのとき

ASS MODE TRIG DTN
VP05 UNSN SNGL 3

ポリフォニックで発音させるか、ユニゾンで発音させるかを設定します。ユニゾンにした場合はさらに、TRIG DTNのパラメーターを設定します。

MODE(モード):

•POLY:ポリフォニック

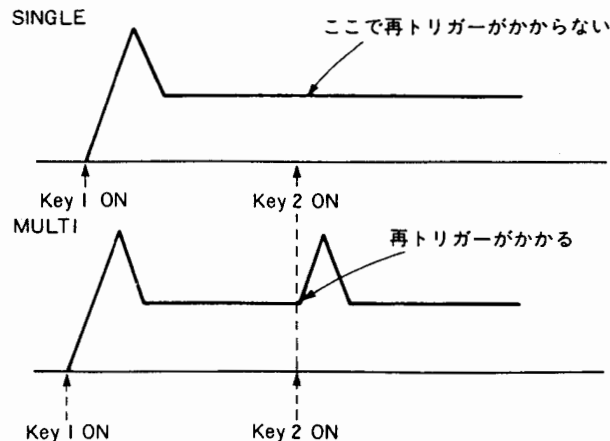
1つの打鍵情報に対して1ボイスを割り当てます。8音までの和音の演奏ができます。

•UNISON:ユニゾン

1つの打鍵情報に対し全てのボイスを割り当てることにより、モノフォニックシンセサイザーとして機能します。

TRIG(トリガー):

UNISON時の打鍵情報に対するトリガーの設定を行います。SINGLE、MULTIは下図のように動作します。



DTN(ディチューン):(0~3)

UNISON時に8ボイス間のディチューンを設定します。値を大きくするにつれて、8ボイス間のピッチのずれが大きくなり、厚みのある音色になります。

06、VOICE NAME(ボイス名)

VOICE NAME
VP06 Hi-STRINGS

音色プログラムに最大10文字までのタイトル(名前)をつけることができます。カーソル上の文字を変更することができます。バリュースライダー、UP/YESキー、DOWN/NOキーを用いて文字を選択します。使用できる文字は以下の通りです。

	!	"	#	\$	%	&	'	()
*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=
>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	a	b	c	d	e
f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
q	r	s	t	u	v	w	x	y	z
{		}	→	←					

07、OCTAVE(オクターブ)

OCTAVE
VP07 MIDDLE

鍵盤やMIDI INからの情報(ノートナンバー)に対して、そのままの音程で発音させるか、または1オクターブ上か下の音程で発音させるかを設定します。

HIGH(ハイ):

ノートナンバーに対して1オクターブ高い音程で発音します。

MIDDLE(ミドル):

ノートナンバーに対して、そのままの音程で発音します。

LOW(ロー):

ノートナンバーに対して1オクターブ低い音程で発音します。

注) このOCTAVEの設定によって707の出力するMIDI OUTのノートナンバーが変わることはありません。

＜COMPAREスイッチについて＞

ボイスパラメーターにおいて、エディット中にCOMPAREスイッチを押すと、もともとそのプログラムにメモリーされてあるパラメーター値を、一時的に呼び出すことができます。再度このスイッチを押すとコンペアー状態から抜けます。

操作しましょう

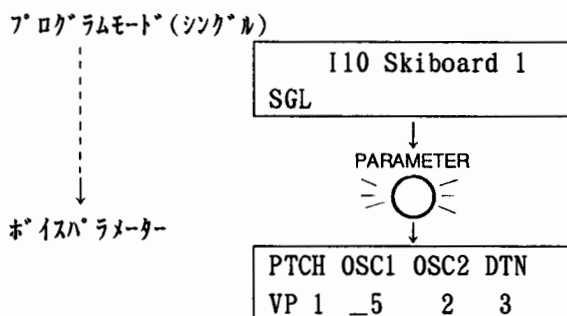
●ボイスパラメーターに入るには？

PARAMETERスイッチを押すと、PARAMETERのLEDが点灯しパラメーターモードに入ります。このときボイスパラメーターとコンビパラメーターのどちらに入るかは、どのキーボードモードからパラメーターモードに入ったかによって決まります。ボイスパラメーターに入るのは次のような場合です。

- ・プログラムモードで、キーボードモード=シングル状態からPARAMETERスイッチを押したとき
- ・コンビネーションモードで、シングルでつくられたコンビネーションプログラムを呼び出している状態からPARAMETERスイッチを押したとき

基本的には、次のような手順でボイスパラメーターに入ります。

- ① プログラムモードにおいて、KBD MODEスイッチによってキーボードモードをシングルにします。
- ② テンキーまたはUP/YES、DOWN/NOキーによって、エディットしたいプログラムを呼び出します。
- ③ PARAMETERスイッチを押すとPARAMETERのLEDが点灯し、LCD表示はボイスパラメーター1、PITCHが表示されます。

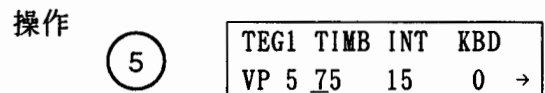


●ボイスパラメーターのエディット

ボイスパラメーターのエディットは次の手順で行います。

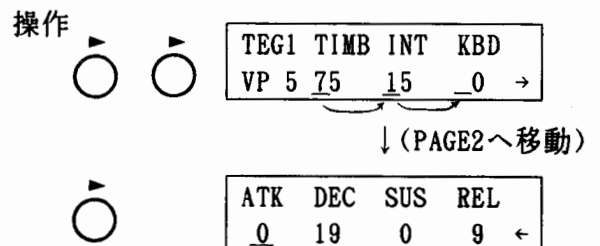
- ① テンキーで呼び出したいパラメーターグループナンバーを入力します。(1~9あるいは01~07)

例) 5 OSC1 TIMBRE EGを呼び出す場合

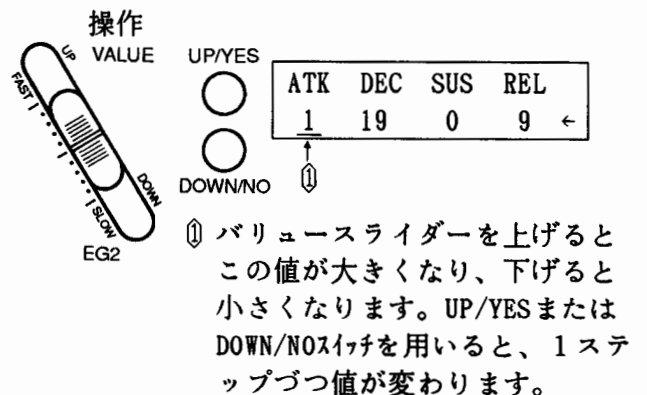


- ② CURSORキーによってエディットしたいパラメーターへカーソルを移動させます。“→”が表示されているときはLCDに表示されている右端のパラメーターにカーソルを移動させた状態からさらにCURSORキー“▶”を押すことによって、PAGE2の表示を呼び出すことができます。

例) OSC1 TIMBRE EGのATK(アタックタイム)をエディットする場合



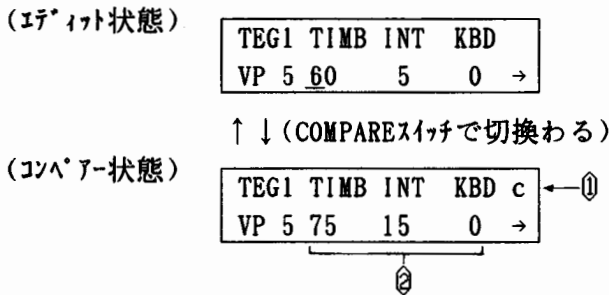
- ③ バリュースライダーまたはUP/YES、DOWN/NOキーでパラメーターの値を変更します。



注) バリュースライダーはパフォーマンスエディターのEG2と共通になっています。ボイスパラメーターの中ではバリュースライダーとして働きます。

●エディット前の各パラメーターのデータを一時的に呼び出したときは？

ボイスパラメーターのエディット中、COMPAREスイッチを押すことによって、そのプログラムに元々メモリーされている各パラメーター値を呼び出すことができます。このとき発音される音も、メモリーされている音色になります。もう一度COMPAREスイッチを押すと、エディットの状態に戻ります。



- ① コンペアー状態であることを示します。
- ② このプログラムにもともとメモリーされている数値が表示されます。

注) コンペアー状態では、テンキーによってほかのパラメーターグループの数値をコンペアーすることや、CURSORキーでPAGEの切換えを行うことができます。ただし、ほかのモードへ移ったり、コンペアー状態のままエディットしたりすることはできません。この場合は、必ずコンペアー状態を解除してください。

II コンビパラメーター

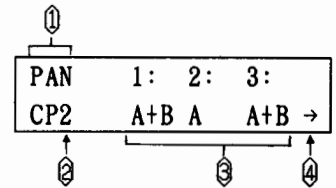
勉強しましょう

●コンビパラメーターについて

キーボードモード=レイヤー、ダブル、およびマルチの時に各グループで必要となる様々な設定を行います。たとえば、グループごとの発音範囲の設定や、ボイス数の設定、MIDIチャンネルの設定などがあります。このような、グループの間でのいろいろな設定をコンビパラメーターといいます。このコンビパラメーターは、その時のキーボードモード、選択しているプログラムナンバーと共に、コンビネーションプログラム

としてメモリーしておくことが可能です。なお、コンビパラメーターに入っている時はLCDの左端に“C.P.”と表示されます。

表示例



- ① コンビパラメーターネーム
- ② コンビパラメーターの2番に入っていることを示します
- ③ 各グループナンバー(上段)と各グループの設定
- ④ 次にPAGE2があることを示します。

●コンビパラメーターとキーボードモード

各コンビパラメーターはキーボードモードの種類によって、設定できるものとできないものがあります。設定できないパラメーターを選択した場合は次のようにLCDに表示されます。

UNAVAIL KBD MODE

〈各キーボードモードで設定できるコンビパラメーター〉

コンビパラメーター	レイヤー	ダブル	マルチ
0. CONTROLLER	○	○	○
1. MG	○	○	○
2. PAN	○	○	○
3. VOLUME	○	○	○
4. NO. OF VOICES	×	○	○
5. RECEIVE CHANNEL	×	×	○
6. INTERVAL/DETUNE	○	○	×
7. KEY SPLIT/ OCT SHIFT	×	○	×

○:設定可能 ×:設定不可能

●各パラメーターの機能、数値およびLCD表示

[] 内にそのコンビパラメーターが設定できるキーボードモードを示します。

0. CONTROLLER(コントローラー):[LAYER, DOUBLE, MULTI]

・キーボードモード=レイヤー、ダブルからこのコンビパラメーターに入った場相はLCDの表示が次のようになります。

CTL SRC 1: 2:
CPO_1 0 N 0 N

•また、マルチからの場合次のようになります。

PAGE1

CTL SRC 1: 2: 3:
CPO_1 0 N 0 N 0 N

PAGE2

4: 5: 6: 7: 8:
0 N 0 N 0 N 0 N 0 N

コントロールホイールやアフタータッチなどのコントローラーに関するパラメーターは、ボイスパラメーターの中に含まれており、各音色プログラムごとに設定するようになっていますが、レイヤー、ダブル、マルチのように複数のグループを使うキーボードモードでは、その中のどれかひとつのグループの設定値を代表して使うこととなります。

ここでは、どのグループの設定値を使うのか、またそのコントローラーの効果をどのグループに与えるのかを決定します。

注)ポルタメントの効果に関しては、各グループでバラバラに設定することができます。

• SRC[SOURCE] (ソース)

コントローラーの効果をどのグループのものにするかを選択します。キーボードモードが、レイヤー、ダブルの場合は、グループ1、2の中から、マルチの場合は、グループ1～8の中から選びます。

このコンビネーションにおけるコントローラーの効果として、ここでソースに選んだグループの設定値に従うのは、つぎのパラメーターとなります。

*VP(※イハ ^ラ マ ^ケ ター)02: CONTROL WHEEL (BEND PTCH, BEND TIMB, MOD P•INT, MOD T•INT, MOD SPEED)
*VP(※イハ ^ラ マ ^ケ ター)04: AFTER TOUCH (PMOD, TIMB, AMP1, AMP2)

また、キーボードモードがマルチの場合にはこのソースで選んだグループのレシーブチャンネル (P. 24 RECEIVE CHANNEL参照) でのみ、BEND、MODURATION、AFTER TOUCHのMIDIデータを受信します。

• ON/OFF

各グループごとに、コントローラーの効果をかけるか、かけないかを設定します。

例) キーボードモード=ダブルで、アッパー側のプログラム(グループ2)には、ピッチベン

ドをかけたいが、ロウアー側のプログラム(グループ1)にはかけたくない時はグループ1のコントローラーをOFFにします。

ON/OFFの対象となる効果は次のとおりです

*BEND PITCH
*BEND TIMBRE
*AFTER TOUCH TIMB
*AFTER TOUCH AMP
*DAMPER
*VOLUME(コントロールホイールによるVOLUME、 およびMIDI VOLUME)
*PORTAMENTO

注)キーボードモードがマルチの時、鍵盤上で演奏可能なグループのCTLがOFFになっていると、本体の各コントローラーは動きません。

1. MODULATION GENERATOR:

[LAYER, DOUBLE, MULTI]

•キーボードモード=レイヤーおよびダブルからこのパラメーターに入った場合はLCDの表示が次のようになります。

MG SRC 1: 2:
CP1_1 0 N 0 N

•またマルチからの場合次のようになります。

PAGE1

MG SRC 1: 2: 3:
CP1_1 0 N 0 N 0 N

PAGE2

4: 5: 6: 7: 8:
0 N 0 N 0 N 0 N 0 N

コンビパラメーター: 0. CONTROLLERと同様に、モジュレーションに関してどのグループの設定値を使うのか、またそのモジュレーションの効果をどのグループに与えるのかを設定します。

• SRC(SOURCE)(ソース)

モジュレーションの効果をどのグループのものにするかを設定します。キーボードモード=レイヤーおよびダブルの場合は、グループ1、2の中から、マルチの場合はグループ1～8の中から選びます。

コンビネーションにおけるモジュレーション効果として、ここでソースに選んだグループのつぎのパラメーターが代表して用いられます。

*VP(※イハ ^ラ マ ^ケ ター)9 MODULATION GENERATOR (WF, FREQ, DLY, PITCH, T/A,)
--

・ON/OFF

各グループごとにソースで設定したモジュレーションジェネレーターの効果をかけるか、かけないかを設定します。ONにしたグループにのみ効果がかかります。

ON/OFFの対象となる効果は次のとおりです

- *ボイスパラメーター9:MODULATION GENERATORによって音色に元々かかっているモジュレーション(ヒアラート、ワウワ、トレモ)
- *モジュレーションホイールによるモジュレーション(ヒアラート、ワウワ、トレモ)
- *AFTER TOUCH PMOD(ヒアラート)

2. PAN(パン): [LAYER, DOUBLE, MULTI]

・キーボードモード=レイヤーおよびダブルからこのパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次のようになります。

PAN	1:	2:
CP2	<u>A</u>	B

・またマルチからの場合次のようになります。

PAGE1

PAN	1:	2:	3:
CP2	<u>A+B</u>	A+B	A+B→

PAGE2

4:	5:	6:	7:	8:
<u>B</u>	B	A+B	A+B	A+B←

各グループの出力を707のOUTPUT A,B(リアパネルの出力ジャック)のいずれかに割り当てることができます。A,B、またはAB両方の3種類から選択します。

3. VOLUME(ボリューム):(0~63)

[LAYER, DOUBLE, MULTI]

・キーボードモード=レイヤーおよびダブルからこのパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次のようになります。

VOLUME	1:	2:
CP3	<u>63</u>	63

・またマルチからの場合は次のようになります。

PAGE1

VOLUME	1:	2:	3:
CP3	<u>63</u>	63	63 →

PAGE2

4:	5:	6:	7:	8:
<u>63</u>	63	63	63	63 ←

各グループの音量を設定します。0で最も小さく、63で各ボイスパラメーターで設定した音量となります。コンビネーションの組合せによっては、音が歪むことがあります。この場合このボリュームを下げて調節してください。

4. NO. OF VOICES(ナンバーオブボイス):

[DOUBLE, MULTI]

・キーボードモード=ダブルからこのパラメーターに入った場合は、LCDの表示が次のようになります。

NoVOICE	1:	2:
CP4	<u>4</u>	4

・またマルチからの場合は次のようになります。

PAGE1

NoVOICE	1:	2:	3:
CP4	<u>1</u>	1	1→

PAGE2

4:	5:	6:	7:	8:
<u>1</u>	1	1	1	1←

各グループの発音数(ボイス数)を合計8音の中で割り当てます。すでに8音が割り当てられている状態で、あるグループの発音数をふやしたい場合は、まず他のグループの発音数を減らしてから行ってください。

5. RECEIVE CHANNEL(レシーブチャンネル): [MULTI]

PAGE1

RECV ch	1:	2:	3:
CP5	<u>16</u>	3	2 →

PAGE2

4:	5:	6:	7:	8:
<u>4</u>	8	9	10	4 ←

マルチの各グループのMIDI受信チャンネルを設定します。外部シーケンサーによってMIDIコントロールを行うときなどに有効です。ここで設定したMIDIチャンネルとファンクションモードで設定されているMIDIチャンネル(ベーシックチャンネル)が同じグループの音色を鍵盤上で演奏することができます。

例) 上図の表示のような場合

ベーシックチャンネルを4に設定すると、グループ4とグループ8をユニゾン(重ねて)で演奏することができます。その他のグループはベーシックチャンネルと異なるので、鍵盤上で演奏することはできません。

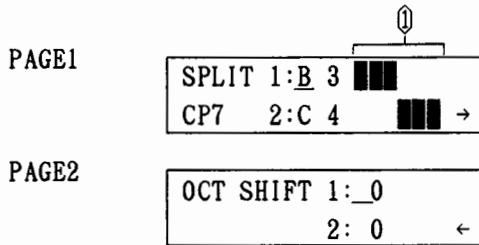
6. INTERVAL/DETUNE(インターバル/デチューン):
[LAYER, DOUBLE]

INTERVAL	DETUNE
CP6	_0 0

キーボードモード=レイヤーおよびダブルのときにグループ1、2の音程をずらしします。

- INTERVAL(インターバル)
グループ1の音程に対して、グループ2の音程を半音単位で高くすることができます。1~12の範囲で設定でき、12で1オクターブ上げることができます。
- DETUNE(デチューン)
グループ1、2の音程をわずかにずらすことができます。-31~+31の範囲で設定でき、最大50セント(1/2音)のデチューン効果が得られます。

7. KEY SPLIT/OCT SHIFT(キースプリット/オクターブシフト):
[DOUBLE]



① グループ1、2のスプリットの状態をLCD上でおおよその見当をつけます。

- SPLIT 1
グループ1の発音範囲の上限を設定します。範囲の下限はC1に固定されており、上限のみC1~C7の範囲で可変します。
- SPLIT 2
グループ2の発音範囲の下限を設定します。上限はC7に固定されており、下限のみC1~C7の範囲で可変します。

ダブルモードは2音色を重ねることもできます。まん中だけ重ねて、実質的に1台のキーボード上で3つの音色を演奏することができます。

注) 707の鍵盤はC2~C6の49鍵ですが、ファンクションモードのTRANSPOSEの設定範囲上下1オクターブづつを含めて、C1~C7の範囲で設定できるようになっています。

- OCT SHIFT 1
グループ1の音程をオクターブ単位で上げる

ことができます。0~+2(2オクターブ)の範囲で可変できます。

- OCT SHIFT 2
グループ2の音程をオクターブ単位で下げることができます。-2~0(2オクターブ)の範囲で可変することができます。

注) このオクターブシフトによって出力されるMIDIデータ(ノートナンバー)が変わることはありません。

操作しましょう

● コンビパラメーターに入るには?

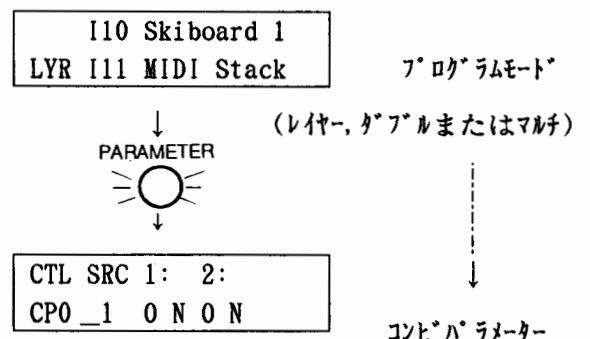
PARAMETERスイッチを押すとPARAMETERのLEDが点灯し、パラメーターモードに入ります。このときボイスパラメーター、コンビパラメーターのいずれに入るかは、どのキーボードモードからパラメーターモードに入ったかによって決まります。コンビパラメーターに入るのは次のような場合です。

- プログラムモードでキーボードモード=レイヤー、ダブル、マルチの状態からPARAMETERスイッチを押したとき
- コンビネーションモードでレイヤー、ダブル、マルチで作られたコンビネーションプログラムを呼び出している状態からPARAMETERスイッチを押したとき

基本的には次のような2通りの手順でコンビパラメーターに入ります。

A. コンビネーションプログラムを1から作っていく場合

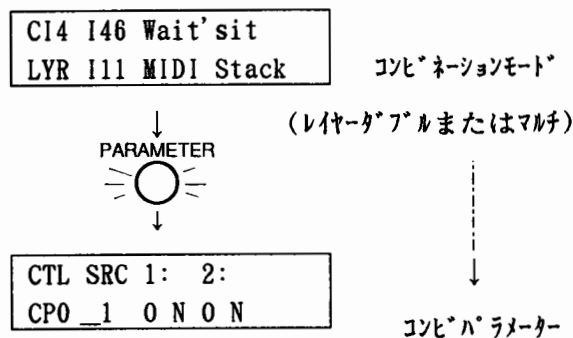
- ① プログラムモードにおいて、使いたいキーボードモードおよび各グループに割り当てる音色を設定しておきます。
- ② PARAMETERスイッチを押すとPARAMETERのLEDが点灯してLCDは以下のように表示します。



注) このとき各コンビパラメーターの数値は初期値が自動的に設定されています。

B. すでに作られているコンビネーションプログラムを基にエディットするとき

- ① コンビネーションモードにおいてエディットしたいコンビネーションプログラムを呼び出しておきます。
- ② PARAMETERスイッチを押すとPARAMETERのLEDが点灯し、LCDは以下のように表示します。



●コンビパラメーターのエディット

コンビパラメーターのエディットは次の手順で行います。

- ① コンビパラメーターにおいて、テンキーで呼び出したいコンビパラメーターナンバー(0~7)1桁を入力します。
- ② ボイスパラメーターと同様にCURSORキーでエディットしたいパラメーターまたはグループナンバーへカーソルを移動させ、バリュースライダーまたはUP/YES, DOWN/NOキーで各値を変更します。

注) コンビパラメーターにおいては、パフォーマンスエディターのEG2が、バリュースライダーとして働きます。

4. ファンクション・モード

【このモードでの機能】

- マスターチューンやMIDI機能など707全体としての要素を設定します。また、メモリーカードからのデータのロードやセーブも、このファンクションモードで行います。

ファンクションモードではパフォーマンスエディターEG2は、バリュースライダーとして機能します。

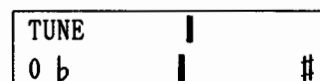
勉強しましょう

●メモリーバックアップについて

ファンクションモードのパラメーターの中で、マスターチューンとMIDIチャンネルはメモリーバックアップされており、電源をOFFにしてもデータは消えません。その他のパラメーターは電源をOFFにすると初期化されます。

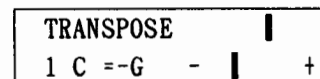
●各パラメーターの機能及びLCD表示

0. MASTER TUNE(マスターチューン)



707のマスターチューン(全体的な調律)を設定します。-50~+50セント(±½音)の範囲で可変できます。センターでA4=440Hzになります。

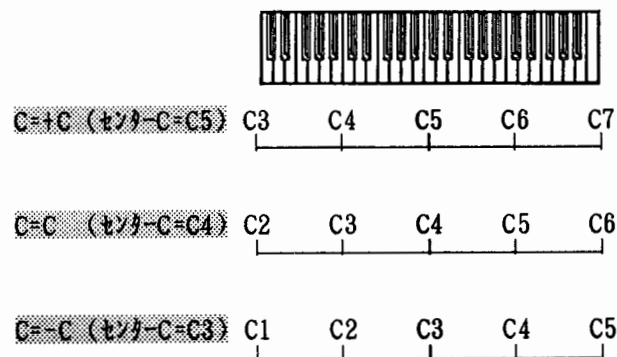
1. TRANSPOSE(トランスポーズ)



707の音程を-1~+1オクターブの範囲内で上下に可変することができます。

—設定値—

—鍵盤上の音程—



注) TRANSPOSEによって音域を変えると、MIDI OUTのデータ(ノートナンバー)も同時にシフトします。

2. FOOT SW1,2 ASSIGN(フットスイッチ1,2 アサイン)

FOOT SW 1:DAMPER
2 2:PORTAMENTO

707は、FOOT SW 1,2の2つのフットスイッチを接続できます。ここでは各FOOT SW にどのような機能を持たせるのかを選択します。

注)FOOT SW 1にはPROG UP(プログラムアップ), DAMPER(ダンパー), PORTAMENTO(ポルタメント)が選択でき、FOOT SW 2にはPROG DOWN(プログラムダウン) DAMPER, PORTAMENTOが選択できます。ただし、FOOT SW 1,2に同じ機能を割り当てることはできません。

3. SAVE TO RAM CARD

(LCD表示は、P. 29 “707本体の音色データをRAMカードにセーブするには?”を参照してください。)

- 本体内のデータをRAMカードにセーブします。
- 購入したばかりのRAMカードを707用にフォーマットする作業もここで行います。

RAMカード:

1バンク当り100音色プログラムのデータと、10コンビネーションプログラムのデータをメモリーすることができます。

カードの種類	容量
MCR-02	(128Kbit) ... 2バンク
MCR-03	(256Kbit) ... 4バンク

注)ROMカードは読みだし専用のカードですので、データをセーブすることはできません。

4. LOAD FROM CARD

(LCD表示にはP. 30 “メモリーカードのデータを本体内部へロードするには?”を参照してください。)

- 707用にフォーマットされているROMカードまたはRAMカードから、1バンク分のデータ(100音色プログラム、10コンビネーションプログラム)を本体内部に読み込みます。
- 707では、KORGデジタルシンセサイザーDS-8のメモリーカードの音色データをロードすることもできます。

ただし、DS-8と707のパラメーターには、若干の違いがありますので、この場合次のような形でロードが行われます。下記に示した以外のパラメーターはそのままロードされます。

*次に示すパラメーターは707に存在しないためロードされません。

- ホイスパラメーター MULTI EFFECT
- コンビパラメーター MULTI EFFECT
- コンビパラメーター MULTI EFFECT IN/OUT

*次に示すパラメーターはDS-8には存在しないため以下の値に自動的に設定されます。

- ホイスパラメーター OCTAVE=MIDDLE
- ホイスパラメーター CONTROL WHEEL MOD P. INT=2
T. INT=0
- コンビパラメーター VOLUME=各グループとも63

*次に示すパラメーターは形を変えてロードされます。

DS-8	→	707
(ホイスパラメーター)		(ホイスパラメーター)
JOY STICK	→	CONTROL WHEEL
BEND PITCH		BEND PITCH
TIMB		TIMB
(コンビパラメーター)		(コンビパラメーター)
KEY SPLIT		KEY SPLIT
1(C7以上)	→	1(C7)
2(C7以上)	→	2(C7)

707ではKEY SPLITはC1~C7の範囲でしか設定出来ませんのでDS-8でのC7以上の値はすべてC7としてロードされます。

5. MEMORY PROTECT(メモリープロテクト)

MEMORY PROTECT
5 INT:0 N EXT:0 N

本体及び、カードスロットにセットされているメモリーカードのメモリープロテクト(書き込み禁止)の設定をします。ONで書き込みが禁止されます。

INT ... 本体内のメモリーのメモリープロテクトを設定します。

EXT ... メモリーカードのメモリープロテクトを設定します。

6. MIDI(Ch/OMNI/LOCAL)

MIDI Ch OMNI LOCAL
6 _1 0 N 0 N

Ch(チャンネル)

ベーシックチャンネル(1~16)の設定をします。送受信チャンネルとも同じに設定されます。

OMNI(オムニ)

MIDIのOMNIモードのON/OFFを設定します。ONにすると、外部MIDIチャンネル1~16を全て受信することができます。OFFにするとCHANNELで設定したベーシックチャンネルのみ受信します。(このOMNIの設定は、キーボードモードがマルチの時には無効になります)

LOCAL(ローカル)

MIDIのLOCALモードのON/OFFを設定します。通常はONに設定しておきます。OFFにすると、707の鍵盤、コントローラー部と音源モジュールが切り離されます。例えば、707によってDSM-1などのMIDIシンセサイザーをコントロールするような場合、707の音を出したくない時には、LOCALをOFFにしておきます。

7. MIDI(FILTERING/EXCLUSIVE)

MIDI ACT PRG CTL EXC
7 <u>O</u> N O N O N OFF

MIDIメッセージの送受信を選択することができます。

ACT(アクティブ)

受信しているMIDI信号を300msごとにチェックする機能をアクティブセンシングと呼びます。ON時に送受信を行います。

PRG(プログラム)

707は、MIDIによるプログラムチェンジが可能です。ONにすると外部からのMIDI信号で707のプログラムチェンジを行ったり、また707で他のMIDI機器のプログラムをコントロールすることができます。OFFにするとこの機能が働かなくなります。

CTL(コントロール)

MIDIによるコントロールチェンジ(ピッチベンド、アフタータッチ、モジュレーションなど)のメッセージを送受信することができます。ONで送受信が可能になり、OFFにすると機能しません。

EXC(エクスクリューブ)

MIDIシステムエクスクリューブデータを送受信することができます。MIDI DATA TRANSFERで音色データのデータダンプ(送受信)を行う

ときはONにしてください。またONのときにプログラムモードでプログラムを呼び出すと、707のMIDI OUT端子からプログラムチェンジのデータを送り出すかわりに音色のデータダンプを送信します。通常はエクスクリューブをOFFにしておいてください。

8. MIDI DATA TRANSFER(MIDIデータ転送)

(LCD表示は、P. 31 “MIDIによるプログラムデータ転送を行うには?”を参照してください。)

内部の100音色プログラムのデータ転送(もう一台の707またはMIDI端子を持ったコンピューターなどにプログラムデータをMIDIで転送すること)を行うことができます。データ転送を行う時は、707のエクスクリューブをONにしておく必要があります。(7. MIDIエクスクリューブ参照)

UP/YESキーを押すとデータ転送を開始します。

9. WHEEL ASSIGN(ホイールアサイン)

WHEEL ASSIGN
VOLUME

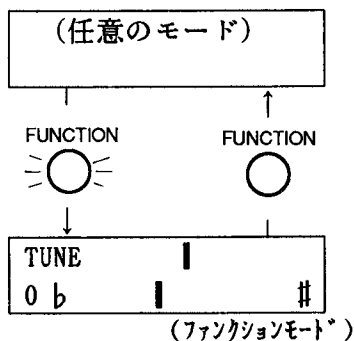
モジュレーションホイールは、ボリュームをコントロールするホイールとして使うこともできます。ここではモジュレーションホイールを、モジュレーション、ボリュームのいずれのコントローラーとして用いるかを設定します。

ここでWHEEL ASSIGNにボリュームを設定した場合、ホイールを回すとボリュームのMIDIデータも出力されます。

操作しましょう

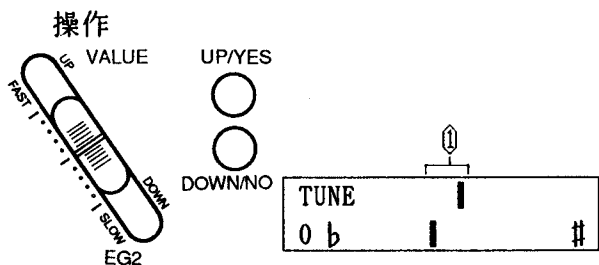
●ファンクションモードへの入り方、抜け方

FUNCTIONスイッチを押すとFUNCTIONのLEDが点灯し、ファンクションモードに入ります。また、再度FUNCTIONスイッチを押すことによってファンクションモードに入る前のモードに戻ることができます。ファンクションモードは全てのモードから入ることができますが、他のモードに移るときは、必ずもう一度FUNCTIONスイッチを押さなくては操作できません。



● マスターチューンを設定するには？

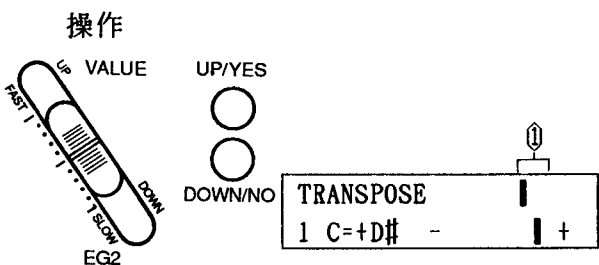
- ① ファンクションモードでテンキーの0を押し、MASTER TUNEを呼び出します。
- ② バリュースライダー、またはUP/YESキー、DOWN/NOキーによってマスターチューンを±50セントの範囲で設定します。



- ① バリュースライダーを上げると右に移動し、下げると左へ移動します。

● キートランスポーズをするには？

- ① ファンクションモードにおいて、テンキーの1を押しして“TRANSPOSE”を呼び出します。
- ② バリュースライダーまたはUP/YES、DOWN/NOキーによって、音程をどれくらい変えるかを±1オクターブの範囲で設定します。
この時、音を出している状態で(鍵盤を押したまま)この値を変えることはできません。音程の変化を耳で確かめながら操作したい場合は、スイッチ操作と発音を交互に繰り返してください。

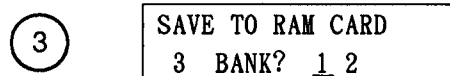


- ① バリュースライダーを上げると右に移動し、下げると左へ移動します。

● 707本体の音色データをRAMカードにセーブするには？

- ① 707用にフォーマットされたRAMカードをカードスロットにさします。
- ② RAMカード本体に付いているWRITE PROTECTスイッチをOFFにします。
- ③ テンキーの5を押してファンクションモード5. MEMORY PROTECTを呼び出し、EXTをOFFにします。(カードのメモリープロテクトを解除します。)
- ④ テンキーの3を押してファンクションモード3. SAVE TO RAM CARDを呼び出します。LCD表示はさされたカードの種類によって次のように異なります。

(MCR-02がさされた場合)

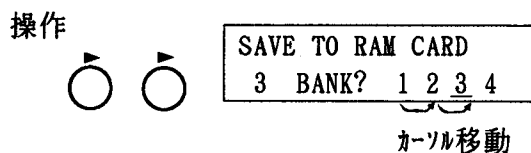


(MCR-03がさされた場合)

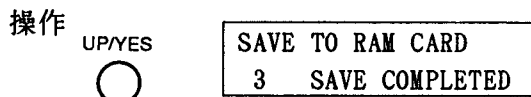


- ⑤ CURSORキーによってカードのどのバンクにデータをセーブするかを選び、UP/YESキーを押します。

例) MCR-03のバンク3にデータをセーブします。



- ⑥ このバンクにデータをセーブしてもよい場合は再度UP/YESキーを押します。セーブが行われるとそのバンクのデータは新しいもの書き換えられます。



- ⑦ 上の表示が現れるとセーブ終了です。
- ⑧ セーブの作業中に以下のLCD表示が現れた場合はエラーの状態、またはそのままではセーブできない状態です。指示にしたがって再度作業を行ってください。

RAM CARD FORMATTING
DO YOU NEED FORMAT?

DS-8 CARD INSERTED
DO YOU NEED FORMAT?

- ・707用にフォーマットされていないカード、またはKORGデジタルシンセサイザーDS-8用にフォーマットされたカードがさされています。

(再作業) このカードにセーブして構わない場合には、P.30“RAMカードを707用にフォーマットするには?”の④からの作業を行ってください。

NO CARD INSERTED

- ・カードスロットにカードがさされていません。

(再作業) セーブを行うためのRAMカードをしっかりとスロットに挿入した後に②の作業からやり直してください。

MEMORY PROTECTED

- ・ファンクションモード5. MEMORY PROTECTのEXTがONになっています。

(再作業) ③の作業からやり直してください。

WRITE IMPOSSIBLE
ROM/PROTECTED RAM

- ・ROMカードまたはWRITE PROTECTスイッチ(カード本体の)がONになっているRAMカードにセーブしようとしています。

(再作業) WRITE PROTECTスイッチをOFFにしたRAMカードをスロットにさした後に、③の作業からやり直してください。

RAM CARD
BATTERY LOW

- ・RAMカードのバックアップ電池の電圧が下がっています。

(再作業) RAMカードのバックアップ電池を交換してください。その後①からの作業をやり直します。カードの電池交換は、スロットにカードをさしたまま行ってください。

●RAMカードを707用にフォーマットするには?

- ①フォーマットしたいRAMカードをカードスロットにさします。
- ②RAMカードの“WRITE PROTECTスイッチ”はOFFにしておきます。
- ③ファンクションモードにおいてテンキーの3を押します。LCD表示は次のようになります。

注)すでに707用にフォーマットされたRAMカードがさされていた場合には、“SAVE TO RAM CARD”を表示します。

(購入したばかりのRAMカードがさしてある場合)

3

RAM CARD FORMATTING
DO YOU NEED FORMAT?

(DS-8用にフォーマットされたRAMカードがさしてある場合)

3

DS-8 CARD INSERTED
DO YOU NEED FORMAT?

- ④ここでUP/YESキーを押すと再度フォーマットを行うかを確認してきますので更にUP/YESを押します。

操作 UP/YES

○

RAM CARD FORMATTING
ARE YOU SURE ?

UP/YES

○

RAM CARD FORMATTING
FORMAT COMPLETED

- ⑤上の表示が現れるとフォーマット終了です。フォーマットの作業が行われるとRAMカードに707用にフォーマットされていることを示すデータ(これをIDと言います)が書き込まれると同時に本体内のプログラムデータがRAMカードの全てのバンクにセーブされます。

●メモリーカード(ROM, RAMカード)のデータを本体内にロードするには?

- ①707または、KORGデジタルシンセサイザーDS-8のデータがメモリーされているカードをカードスロットにさします。DS-8のカードをさした場合には“DS-8 CARD INSERTED”が表示されますが、そのまま作業を続けてください。
- ②テンキーの5を押してファンクションモード5. MEMORY PROTECTを呼び出し、INTをOFFにします。(本体内のメモリープロテクトを解除します)

- ③テンキーの4を押してファンクションモード4. LOAD FROM CARDを呼び出します。LCD表示は、さされたカードの種類によって次のように異なります。

(ROMカードがさされた場合)

④

LOAD FROM CARD
4 BANK? 1

(MCR-02がさされた場合)

④

LOAD FROM CARD
4 BANK? 1 2

(MCR-03がさされた場合)

④

LOAD FROM CARD
4 BANK? 1 2 3 4

注) ここでDS-8のメモリーカードがさされていた場合には、LCD表示の上の段には“LOAD FROM DS-8 CARD”と表示されます。

- ④CURSORキーによってカードのどのバンクをロードするかを選び、UP/YESキーを押します。

例) MCR-03のバンク4のデータをロードします。

操作

LOAD FROM CARD
4 BANK? 1 2 3 4

カーソル移動

UP/YES

LOAD FROM CARD
4 ARE YOU SURE ?

- ⑤このバンクデータをロードしてもよい場合はUP/YESキーを押します。ロードが行われると、本体内のプログラムデータは全て書き換えられてしまいます。

操作 UP/YES

LOAD FROM CARD
4 LOAD COMPLETED

●MIDIによるプログラムデータ転送を行うには?

- ①データの送信側の707のMIDI OUTと受信側の機器(707またはコンピューター)のMIDI INをケーブルで接続します。

- ②707(送信側)を次のように設定します。
・ファンクションモード7. “MIDI”のEXCをONにします。
・プログラムモードに入り、キーボードモードをシングルにしておきます。

- ③707から707へデータを送る場合は、受

信側の707を次のように設定します。

- ・ファンクションモード7. “MIDI”のEXCをONにします。
- ・ファンクションモード6. “MIDI”のCh(チャンネル)を送信側と同じにします。
- ・ファンクションモード5. “MEMORY PROTECT”のINTをOFFにしておきます。
- ・プログラムモードに入りキーボードモードをシングルにしておきます。

(データの受信側がコンピューター等の場合は、③の設定は必要ありません。)

データ転送の準備ができました。

*707同志のデータ転送では、受信側のMIDI OUTと送信側のMIDI INは接続しないでください。

- ④プログラムデータ転送には以下の2種類があります。

★プログラム(音色)データを1プログラムずつ送ります。

- ・上で設定した状態から送信側の707をプログラムチェンジすると、新たに呼び出されたプログラムの音色データが送信されます。707同志のデータ転送の場合、受信側のLCD表示はプログラムナンバーはそのまま、プログラム名前だけがプログラムチェンジのたびに変わってきます。

(受信した音色データはまだメモリーされていません。メモリーしたい時は“ライト”を行ってください。)

★100種類音色のプログラムデータをまとめて送ります。

- ・②で設定した状態から、送信側の707を操作してファンクションモードへ入り、ファンクションモード8.MIDI DATA TRANSFERを呼び出します。

操作 FUNCTION

DATA TRANSFER
8 ARE YOU SURE ?

 ⑧

ファンクションモード7.MIDIのEXCがOFFになっていると、次のように表示されます。

DATA TRANSFER
8 EXCLUSIVE OFF!

- ・データ転送を行うときは、UP/YESキーを押してください。送信を開始します。

操作

UP/YES



DATA TRANSFER
8 EXECUTING

↓(数秒後に表示が変わる)



DATA TRANSFER
8 ARE YOU SURE ?

・上の表示が現れると送信終了です。

注) 受信した100音色データは、本体内に直接メモリーされます。

●その他のファンクションモードのパラメーターを設定するには？

ここまで説明した以外のファンクションモードのパラメーターエディットはボイスパラメーターと同様の操作で行えます。

- ①テンキー(0-9)によってエディットしたいファンクションを呼び出します。
- ②CURSORキーによってカーソルをエディットしたいパラメーターへ移動させます。
- ③バリュースライダーまたは、UP/YES, DOWN/NOキーによって数値をエディットします。

5 ライトモード

【このモードでの機能】

- ・プログラムライトを行ないます。
- ・コンビネーションプログラムライトを行います。

勉強しましょう

●パフォーマンスエディターのライトについて

パフォーマンスエディターが有効になるのは、プログラムモード及びコンビネーションモードのときですが、さらにパフォーマンスエディターによって作り出した音色をライトできるのはプログラムモードでキーボードモードがシングル時のみです。

またこの状態で、パフォーマンスエディターを使って音色をエディットしているときに、ボイスパラメーターへ移ると、その音色はキャンセルされます。

パフォーマンスエディターによる音色をさらにボイスパラメーターでエディットしたい場合は、一度プログラムライトした後にボイスパラメーターへ入ってください。

●プログラムライトについて

プログラムライトが行なえるのは次の場合です。

- ①プログラムモードでキーボードモードがシングルの状態からWRITEスイッチを押したとき。
(このときパフォーマンスエディターが動かされていれば、その状態の音色がライトされません。)
- ②ボイスパラメーターにいる状態で、WRITEスイッチを押したとき。

●コンビネーションプログラムのライトについて

コンビネーションプログラムライトが行なわれるのは次の場合です。

- ①コンビネーションモードにいる状態で、WRITEスイッチを押したとき。
(このときパフォーマンスエディターによって変更した音色はキャンセルされます。)
- ②コンビネーションパラメーターにいる状態で、WRITEスイッチを押したとき。

プログラムはインターナル、エクスターナルどちらのメモリー領域からでも呼び出して組み合わせることができますが、コンビネーションプログラムにメモリーする場合は、組み合わせるプログラムを必ず書き込み先と同一のメモリー領域からのものに統一してください。

例1)キーボードモード、レイヤーの場合 (本体にメモリーする)

グループ1 100 (インターナルプログラム)
グループ2 102 (インターナルプログラム)



コンビネーションプログラム 10 (インターナル)
にライトします。

例2)キーボードモード、ダブルの場合 (RAMカードにメモリーする)

グループ1 E04 (エクスターナルプログラム)
グループ2 E05 (エクスターナルプログラム)



コンビネーションプログラム E0 (エクスターナル)
にライトします。

*図のようにコンビネーションプログラムを本体にメモリーする場合は、各キーボードモードに組み合わせるプログラムも全てインターナル(本体の)プログラムに統一します。

RAMカードにメモリーする場合も同様に、各グループをエクスターナルプログラムにして下さい。

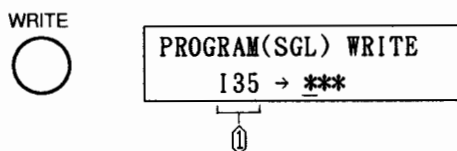
操作しましょう

●プログラムライトを行うには？

プログラムライトを行う手順は、基本的には次の2通りがあります。

[ボイスパラメータでエディットした音色のライト]

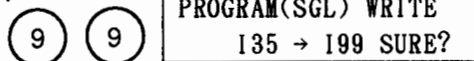
1. ボイスパラメータでエディット終了後、WRITEスイッチを押します。



- ① ボイスパラメータにおいて、エディットしていたプログラムのプログラムナンバー
2. CARDスイッチによって、このプログラムをインターナル、エクスターナルのどちらのプログラムにメモリーするかを選択します。
CARDのLEDが点灯している状態ではエクスターナル(カード)へ、LEDが消えている状態ではインターナル(本体)への書き込みが行われます。
3. つづいて、テンキーで書き込み先のプログラムナンバー2桁を入力します。

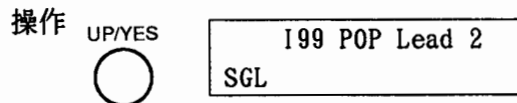
例) 上記のプログラム(135)を、インターナルの99番へ書き込みます。この場合、CARDのLEDは、すでに消えていますので、CARDスイッチを操作する必要はありません。

操作



4. 上記の書き込みを行う場合はUP/YESキーを押し、キャンセルする場合はDOWN/NOキーを押すか、再度テンキーで書き込み先のナンバーを入力します。

例) 書き込みを実行します。



ライト終了後は自動的にプログラムモードへ入ります。

5. ライトの作業中、次の表示が現れたときは、エラー状態です。
指示に従って再度作業を行ってください。

MEMORY PROTECTED

- ・ファンクションモード5. MEMORY PROTECTがONになっています。
- (再作業) 書き込み先がインターナル(本体)の場合はMEMORY PROTECTのINTを、エクスターナル(カード)の場合はEXTをOFFにし、ファンクションキーを押してから、再度WRITEスイッチを押してください。

WRITE IMPOSSIBLE
ROM/PROTECTED RAM

- ・ROMカード、またはWRITE PROTECTスイッチがONになっているRAMカードがささっています。
- (再作業) WRITE PROTECTスイッチをOFFにしたRAMカードをスロットにさした後、再度WRITEスイッチを押してください。

DS-8 CARD INSERTED

- ・KORGデジタルシンセサイザーDS-8用にフォーマットされたカードがさされています。
- (再作業) DS-8のカードは、音色データの読みだしはできますが、書き込みはできません。707用にフォーマットされたRAMカードをさして、再度WRITEスイッチを押してください。

[パフォーマンスエディターによってエディットした音色のライト]

1. プログラムモードのキーボードモードをシングルにして、エディットしたいプログラムを呼び出します。
2. パフォーマンスエディターの3本のスライダーで音色エディットを行います。

3. エディットした状態よりWRITEスイッチを押します。



PROGRAM(SGL) WRITE
I35 → ***

4. 以降、[ボイスパラメータによってエディットした音色のライト]の2.からの作業と同様にライトを行います。

このときライトされたプログラムのボイスパラメータを見ると、パフォーマンスエディターによって間接的にボイスパラメータがエディットされたのがわかります。

☆ボイスパラメータのライトとパフォーマンスエディターのライトを組み合わせることにより、効果的に音色エディットを行ってください。

- コンビネーションプログラムライトを行うには？
コンビネーションライトの手順は基本的に次の2通りがあります。

【コンビパラメーターからライトを行う場合】

1. コンビパラメーターにおいてエディット終了後、WRITEスイッチを押します。



COMBINATION WRITE
Ci3 → C**

- ① Ci3はCI3(インターナル コンビネーションプログラム3番)をもとにエディットしたものであることを示します。

2. CARDSスイッチによってインターナル、エクスターナルいずれのコンビネーションプログラムにライトするかを選択します。

注) インターナルへライトするときは、そのコンビネーションで使用されているプログラムはすべてインターナルプログラムでなければなりません。また、エクスターナルへライトするときは全てエクスターナルで作られてなければなりません。

3. テンキーによって書き込み先のコンビネーションプログラムナンバー(0-9)を入力します。

例) Ci3をエクスターナルコンビネーションプログラムの1番へライトします。



COMBINATION WRITE
Ci3 → CE1 SURE?

4. 書き込みを行うときはUP/YESキーを押します。キャンセルするときはDOWN/NO を押すか、書き込み先を再度指定します。

例) 書き込みを実行します。



CE1 E00 Piano 1
LYR E10 Piano 2

書き込み終了後は自動的にコンビネーションモードに入ります。

5. コンビネーションプログラム・ライトの作業中に次の表示がなされたときはエラー状態です。指示に従って再度作業を行ってください。

COMBI WRITE ERROR

- ・組み合わせるプログラム及び書き込み先のメモリー領域(インターナル、エクスターナル)が統一されていません。(再作業) インターナルへライトするときは全てインターナルプログラムで、エクスターナルへライトするときは、全てエクスターナルプログラムでコンビネーションを作ってください。

☆その他のエラーメッセージに関してはP.37を参照してください。

【コンビネーションモードからライトを行う場合】

コンビパラメーターを自動的に設定される値のままにして、コンビネーションを作るときはコンビネーションモードからライトを行います。

1. プログラムモードで、コンビネーションで使用するキーボードモード、及び各グループに割り当てるプログラムを設定しておきます。
2. この状態よりCOMBINATIONスイッチを押し、ついでWRITEスイッチを押します。



Ci3 I00 Tine Piano
LYR I11 MIDI Stack

- ① ここに表示されているコンビネーションは元々インターナルの3番 (CI3) にメモリーされてるものとは違うことを示します
- ② 1. の設定をそのまま表示します

WRITE



COMBINATION WRITE

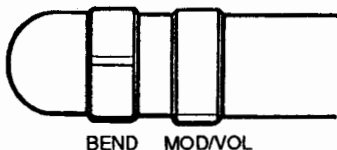
CI3 → ***

3. 以降、P. 34 [コンビパラメータからライトを行う場合] の3. からの作業を行ってコンビネーションライトを行います。これにより、1. で設定したキーボードモード、使用するプログラム、と初期設定のコンビパラメータによって作られたコンビネーションプログラムがメモリーされたこととなります。

6. プレイング ファクション

(効果的な演奏のために)

●CONTROL WHEEL(コントロールホイール)



BEND

ホイールを上下に動かして鍵盤全体のピッチを変化させたり、音色をコントロールすることが出来ます。上に回すとピッチがあがったり、音色が明るく変化します。下に回すとピッチがさがったり、音色がソフトに変化します。変化の幅はボイスパラメーター02. で設定した値によって決定されます。ピッチの可変幅はBEND PITCHで、音色の変化幅はBEND TIMBで設定します。

MOD/VOL

モジュレーションホイールを上下に動かすと、ビブラートやワウワウのモジュレーション効果が得られます。同時にモジュレーションスピードも変化します。

これらの設定は、ボイスパラメーター02. MOD PITCH、T・INT. SPEEDおよび9. MODULATION GENERATOR

で行います。

またこのホイールは、ファンクションモード9. WHEEL ASSIGNによってボリュームのコントローラーとして用いることも出来ます。

●WHEEL REVスイッチ(ホイールリバースイッチ)

WHEEL REVスイッチを押すとこのLEDが点灯し、2つのコントロールホイールによって得られる効果が上、下方向で逆になります。例えば、BENDを上方向に回すとPITCHが下がります。707をショルダーキーボードとして用いるときに便利です。

●PORTAMENTOスイッチ(ポルタメントスイッチ)

ポルタメント効果のON/OFFを行います。PORTAMENTOスイッチをONするとこのLEDが点灯します。

●FOOT SW 1, 2

ファンクションモード2. FOOT SW 1, 2 ASSIGNによってそれぞれのペダルの機能を次に示すものから、選びます。

FOOT SW 1. : PROG UP (プログラムアップ)
DAMPER (ダンパー)
PORTAMENTO (ポルタメント)

FOOT SW 2. : PROG DOWN (プログラムダウン)
DAMPER
PORTAMENTO

(FOOT SWは、リアパネルのFOOT SW 1, 2. 端子にFOOT SWを接続してください。)

●ベロシティー機能について

707はキーを打鍵する強さによって音量や音色を変化させることが出来るベロシティー機能を持っています。ベロシティー(ベロシティーによる変化のかけりぐあい)の設定は、ボイスパラメーター03. VELOCITYを使って行います。

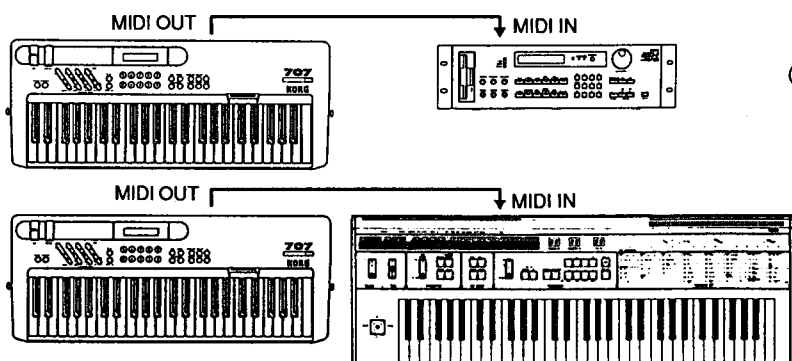
●アフタータッチ機能について

キーを打鍵した後、更にそのキーを強く押えることによって、弾いている音全てにビブラート効果をかけたり、音色を明るくしたり、音量を大きくすることができます。これをアフタータッチ機能と呼び、ボイスパラメーター04. AFTER TOUCHで設定されたパラメーターによって効果の大きさを設定することができます。

注) 本製品は、デジタル音源を採用していますのでベンドホイールやアフタータッチなどで音色や音量を急激に変化させると若干のデジタルノイズが聴こえる場合があります。

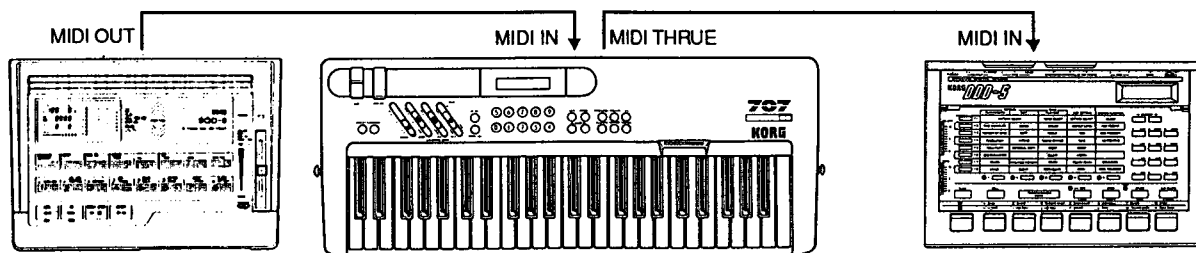
●MIDIアプリケーション

- ・707で他のMIDIシンセサイザー(DSS-1、DW-8000など)や、MIDI音源ユニット(DSM-1)などをコントロールします。



- ① 707のMIDI OUTと他のシンセサイザーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
- ② 接続したMIDI OUTと他のシンセサイザーの受信チャンネルと707の送信チャンネルを同じにセットします。MIDIチャンネルの設定は“ファンクションモード6.MIDI”で行います。
- ③ 演奏データを送信するだけでなく、707のプログラムチェンジで他のMIDIシンセサイザーのプログラムをコントロールしたり、ピッチベンドや、アフタータッチ機能进行操作することができます。

- ・マルチトラック、シーケンサーSQD-8で707とKORGデジタルダイナミックドラムDDD-5を演奏しましょう。(DDD-5のMIDI受信チャンネル=8ch、OMNI=OFFに設定)



SQD-8

TRACK1 (グループ1の演奏データ)	MIDI CH=1	→	グループ1 (グループ1)	MIDI CH=1
TRACK2 (グループ2の演奏データ)	MIDI CH=2	→	グループ2 (グループ2)	MIDI CH=2
TRACK3 (ストリングス1の演奏データ)	MIDI CH=3	→	グループ3 (ストリングス1)	MIDI CH=3
TRACK4 (ストリングス2の演奏データ)	MIDI CH=4	→	グループ4 (ストリングス2)	MIDI CH=4
TRACK5 (ピアノ1の演奏データ)	MIDI CH=5	→	グループ5 (ピアノ1)	MIDI CH=5
TRACK6 (ピアノ2の演奏データ)	MIDI CH=6	→	グループ6 (ピアノ2)	MIDI CH=6
TRACK7 (ベースの演奏データ)	MIDI CH=7	→	グループ7 (ベース)	MIDI CH=7
TRACK8 (DDD-5用の演奏データ)	MIDI CH=8	→	グループ8 (任意)	MIDI CH=1~8以外

707:キーボードモードマルチ

- ① SQD-8の各トラックに上図のような演奏データを書いておきます。
- ② SQD-8のMIDI OUTと707のMIDI INを、707のTRUEとDDD-5のMIDI INを接続します。
- ③ SQD-8をプレイします。すると707は1~7チャンネルのMIDIデータを受けて演奏し、DDD-5は8チャンネルのデータを受けて演奏を行います。

注) このセッティングの場合、707のグループ8は演奏されません。

●MIDIリセット機能

MIDIを使用中、思わぬ原因で音がでなかったり、または出たままになったりピッチベンドやモジュレーションがかかったままになったような場合には、パネル上のコンペアーキーを押すことによりその状態をリセットすることができます。

エラーメッセージ・ワーニングメッセージ

エラーメッセージ

UNAVAIL KBD MODE

現在のキーボードモードではこのパラメーターは設定できないことを示します。

→キーボードモードを適切なものに変更してください。

NO CARD INSERTED

カードスロットにカードがさされていません。
→カードをカードスロットに差し込んでください。

NO DATA IN CARD

データが入っていないカード、または707では使用できないカードがさされています。

→このカードを使用する場合は707用にフォーマットを行ってください。フォーマットの作業はP. ファンクションモード3. SAVE TO RAM CARDで行います。

*新たなカードをセットするときは、現在のモードのスイッチを押してこの表示をクリアしてから行ってください。

MEMORY PROTECTED

ファンクションモード5. MEMORY PROTECTの設定がONになっています。

→メモリープロテクトをOFFにします。

WRITE IMPOSSIBLE ROM/PROTECTED RAM

ROMカードまたは、カード本体のライトプロテクトスイッチがONになっているRAMカードへの書き込みはできません。

→ライトプロテクトスイッチがOFFになっているRAMカードをセットしてください。

COMBI WRITE ERROR

コンビネーションプログラムとして組み合わせるプログラムおよび書き込み先のメモリー領域(インターナル/エクスターナル)が統一されていません。

→インターナルヘライトするときはすべてインターナルプログラムで、エクスターナルヘライトするときはすべてエクスターナルプログラムでコンビネーションを作ってください。

ワーニングメッセージ

WARNING CHANGE BATTERY

本体の電源用乾電池の電圧が下がっています。
→単2電池6本をすべて取り換えるか、ACアダプターを使用してください。

RAM CARD BATTERY LOW

セットされているRAMカードの電池の電圧が下がっています。

→RAMカードのリチウム電池を取り換えてください。電池交換は707の電源をONにしたまま、スロットにカードをさした状態で行います。

DS-8 CARD INSERTED

コルグ・デジタルシンセサイザー・DS-8用のメモリーカードがさされています。

→707では、DS-8用のカードも使用できますので、そのまま作業を続けてかまいませんが、DS-8用のカードへの書き込みおよびデータセーブはできません。

*新たなカードをセットするときは、現在のモードのスイッチを押してこの表示をクリアしてから行ってください。

DATA TRANSFER 8 EXCLUSIVE OFF!

ファンクションモード7. MIDIのEXC(エクスクル-ソフ)がOFFになっています。

→MIDIのEXCをONにします。

故障とお思いになる前に

POWERスイッチをONにしてもLCD表示がでない

電池は正しく入っていますか？あるいは正規のACアダプターがきちんとつながっていますか？またLCDのコントラストつまみが適切な位置になっていますか？正しくセットし直してください。

POWERスイッチをONにしても音がでない。または操作中音がでなくなった。

→

・電池の電圧は下がっていませんか？新しい電池と交換してください。

・モジュレーションホイールによるボリューム(MODホイールがVOLUMEに設定されているとき)が0になっていませんか？モジュレーションホイールによるボリュームを上げてください。

・他のMIDI機器でボリュームをコントロールしていませんか？この場合、COMPAREスイッチを押すと、外部からのMIDIデータはリセットされます。

・リアパネルのOUTPUTのジャックにアンプへのコードのプラグが正しく接続されていますか？またLOCALがOFFになっていませんか？正しく設定し直してください。

パネルのスイッチを押しても他のモードへ移れない

→

・ファンクションモードになっていませんか？FUNCTIONスイッチを再度押し、ファンクションモードから抜けてください。

・コンペアー状態になっていませんか？LCD表示の右上に“C”が表示されているときはコンペアー状態です。COMPAREスイッチを再度押し、コンペアー状態から抜け出してください。

音色が常に、モジュレーションのかかったような状態になっている。

→

・モジュレーションホイールは0になっていますか？ホイールリバーズに注意して、0に戻してください。

・他のMIDI機器でモジュレーションをコントロールしていませんか？この場合、COMPAREスイッチを押すと外部からのMIDIデータはリセットされます。

M I D I I M P L E M E N T A T I O N

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=24-96 (49Key + Transpose)	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=24-96 (49Key + Transpose) vvv vvvv=15-127	A
1011 nnnn	0000 0001	0vvv vvvv	Modulation (Modulation Wheel) vvv vvvv=0-127	C
1011 nnnn	0000 0110	0vvv vvvv	Data Entry (Edit Slider) vvv vvvv=0-127	E
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume (Modulation Wheel) vvv vvvv=0-127	C
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off (Assignable Pedal 1,2)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On (Assignable Pedal 1,2)	C
1011 nnnn	0100 0001	0000 0000	Portamento Off (A. Pedal1,2, Panel SW)	C
1011 nnnn	0100 0001	0111 1111	Portamento On (A. Pedal1,2, Panel SW)	C
1011 nnnn	0110 0000	0000 0000	Data Increment (UP/YES Switch)	E
1011 nnnn	0110 0001	0000 0000	Data Decrement (DOWN/NO Switch)	E
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change ppp pppp=0-99 (Program) ppp pppp=0-9 (Combination)	P
1101 nnnn	0vvv vvvv	---- ----	Channel Pressure (After Touch) vvv vvvv=0-127	C
1110 nnnn	0000 0000	0bbb bbbb	Bender Change (Bend Wheel) *1	C
1110 nnnn	0111 1111	0111 1111	bbb bbbb=00-64-127 Bender Change (Max) (Bend Wheel) *1	C

Notes: nnnn=MIDI Channel Number(0-15)

ENA:Trans Enable = A : Always Enable

*1: Only When DATA is at Max. LSB=7FH
0000H - 4000H - 7F00H, 7F7FH(129step)
(Min) (Center) (Max)

C : Control On

P : Program On

E : Exclusive On

1-2 SYSTEM REAL TIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

Trans While ACT On

1-3 STSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

ID	Description	R	C	D	E
—	DEVICE ID	○			
42	PANEL MODE	○			
4B	KEYBOARD MODE	○			
4E	PANEL MODE CHANGE		○		
4A	KEYBOARD MODE CHANGE		○		
41	PROGRAM PARAMETER CHANGE		○		

ID	Description	R	C	D	E
40	PROGRAM PARAMETER SAVE	○	○		
4C	ALL PROG PARA & ALL COMBI PARA SAVE	○		○	
49	COMBINATION PARAMETER SAVE	○	○		
4D	ALL COMBINATION PARAMETER SAVE	○			
23	DATA, MODE LOAD, CHANGE COMPLETED				○
24	DATA SAVE, LOAD ERROR				○
21	WRITE COMPLETED				○
22	WRITE ERROR				○

R: Transmit When Request Message Received
C: Transmit When Mode or No. Change
D: Transmit When Data Transfer Mode
E: Transmit When Data, Mode Load, Change or Write

7 0 7 SYSTEM EXCLUSIVE HEADER

1111 0000 (F0) : Exclusive Status
0100 0010 (42) : KORG ID
0011 nnnn (3n) : Format ID n: Cannel
0001 1010 (1A) : 707 ID

(1) DEVICE ID

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
1111 0111	EOX

(2) PANEL MODE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 0010	PANEL MODE 42H
0000 0mmm	Mode Data (See NOTE 1)
1111 0111	EOX

(3) KEYBOARD MODE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1011	KEYBOARD MODE 4BH
0000 0odd	Data (See NOTE 2)
1111 0111	EOX

(4) PANEL MODE CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1110	PANEL MODE CHANGE 4EH
0000 0ddd	Data (See NOTE 1)
1111 0111	EOX

(5) KEYBOARD MODE CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1010	KEYBOARD MODE CHANGE 4AH
0000 0odd	Data (See NOTE 2)
1111 0111	EOX

(6) PROGRAM PARAMETER CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 0001	PROGRAM PARAMETER CHANGE 41H
0ddd dddd	PARAMETER No.
0ddd dddd	Parameter Value LSB
0000 000d	Parameter Value MSB
1111 0111	EOX

(7) PROGRAM PARAMETER SAVE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 0000	PROGRAM PARAMETER SAVE 40H
0ddd dddd	Data (See NOTE 3)
⋮	
1111 0111	EOX

(8) ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER SAVE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1100	ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER SAVE 4CH
0ddd dddd	Data (See NOTE 4)
⋮	
1111 0111	EOX

(9) COMBINATION PARAMETER SAVE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1001	COMBINATION PARAMETER SAVE 49H
0ddd dddd	Data (See NOTE 5)
⋮	
1111 0111	EOX

(10) ALL COMBINATION PARAMETER SAVE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1101	ALL COMBINATION PARAMETER SAVE 4DH
0ddd dddd	Data (See NOTE 6)
⋮	
1111 0111	EOX

(11)DATA, MODE LOAD, CHANGE COMPLETED

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0010 0011	DATA, MODE LOAD, CHANGE COMPLETED 23H
1111 0111	EOX

(13)WRITE COMPLETED

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0010 0001	WRITE COMPLETED 21H
1111 0111	EOX

(12)DATA SAVE, LOAD ERROR

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0010 0100	DATA SAVE, LOAD ERROR 24H
1111 0111	EOX

(14)WRITE ERROR

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0010 0010	WRITE ERROR 22H
1111 0111	EOX

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off *1	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off *1	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvvv=1-127 *1	A
1011 nnnn	0000 0001	0vvv vvvv	Modulation Intensity	C
1011 nnnn	0000 0110	0vvv vvvv	Data Entry	E
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0000 1010	000x xxxx	Panpot (A)	C
1011 nnnn	0000 1010	001x xxxx	Panpot (A+B)	C
1011 nnnn	0000 1010	010x xxxx	Panpot (A+B)	C
1011 nnnn	0000 1010	011x xxxx	Panpot (B)	C
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0001	00xx xxxx	Portamento Off	C
1011 nnnn	0100 0001	01xx xxxx	Portamento On	C
1011 nnnn	0110 0000	0000 0000	Data Increment	E
1011 nnnn	0110 0001	0000 0000	Data Decrement	E
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 1100	0000 0000	OMNI OFF(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1101	0000 0000	OMNI ON(All Notes off)	A
1011 nnnn	0111 1110	0xxx xxxx	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change *2	
1101 nnnn	0vvv vvvv	-----	Channel Pressure (After Touch)	C
1110 nnnn	0xxx xxxx	0bbb bbbb	Bender Change	C

Notes: x : Does not apply

*1 : Note Number 0kkk kkkk=0-127

Out Of Range Of 24-96 DATA Is Shifted By Octave Till Within Range

*2 : Over 99 Number DATA Is Subtracted By 100 (PROGRAM MODE)

ex100 → 00, 127 → 27

Over 9 Number DATA Is Subtracted By 10 Till Under 10 (COMBINATION MODE)

ex10 → 0, 127 → 7

2-2 SYSTEM REAL TIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

Receive While ACT On

2-3 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

—	DEVICE ID REQUEST
12	PANEL MODE REQUEST
1B	KEYBOARD MODE REQUEST
4E	PANEL MODE CHANGE
4A	KEYBOARD MODE CHANGE
41	PROGRAM PARAMETER CHANGE
10	PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST
1C	ALL PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST
19	COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST
1D	ALL COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST
11	PROGRAM WRITE REQUEST
1A	COMBINATION WRITE REQUEST
40	PROGRAM PARAMETER LOAD
4C	ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER LOAD
49	COMBINATION PARAMETER LOAD
4D	ALL COMBINATION PARAMETER LOAD

(1)DEVICE ID REQUEST

Byte	Description
1111 0000	Exclusive Status
0100 0010	KORG ID
0100 nnnn	Format ID 4nH(n=ch)
1111 0111	EOX

(2)PANEL MODE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 0010	PANEL MODE REQUEST 12H
1111 0111	EOX

(3)KEYBOARD MODE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 1011	KEYBOARD MODE REQUEST 1BH
1111 0111	EOX

(4)PANEL MODE CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1110	PANEL MODE CHANGE 4EH
0000 0mmm	Mode Data (See NOTE 1)
1111 0111	EOX

(5)KEYBOARD MODE CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1010	KEYBOARD MODE CHANGE 4AH
0000 00mm	Mode Data (See NOTE 2)
1111 0111	EOX

(6)PROGRAM PARAMETER CHANGE

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER

Byte	Description
0100 0001	PROGRAM PARAMETER CHANGE 41H
Oppp pppp	Parameter No.
Oddd dddd	Parameter Value LSB
0000 000d	Parameter Value MSB
1111 0111	EOX

(7)PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 0000	PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST 10H
1111 0111	EOX

(8)ALL PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 1100	ALL PROGRAM PARAMETER SAVE REQUEST 1CH
1111 0111	EOX

(9)COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 1001	COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST 19H
1111 0111	EOX

(10)ALL COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST

Byte	Description
F0, 42, 3n, 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 1101	ALL COMBINATION PARAMETER SAVE REQUEST 1DH
1111 0111	EOX

(11)PROGRAM WRITE REQUEST

Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 0001	PROGRAM WRITE REQUEST 11H
0ppp pppp	Write Program No. (0-99) *2
1111 0111	EOX

(12)COMBINATION WRITE REQUEST

Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0001 1010	COMBINATION WRITE REQUEST 1AH
0ppp pppp	Write Combination No. (0-9) *2
1111 0111	EOX

(13)PROGRAM PARAMETER LOAD

Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 0000	PROGRAM PARAMETER LOAD 40H
0ddd dddd	Data (See NOTE 3)
1111 0111	EOX

(14)ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER LOAD

Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1100	ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER LOAD 4CH
0ddd dddd	Data (See NOTE 4)

Byte	Description
1111 0111	EOX

(15)COMBINATION PARAMETER LOAD

Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1001	COMBINATION PARAMETER LOAD 49H
0ddd dddd	Data (See NOTE 5)
1111 0111	EOX

(16)ALL COMBINATION PARAMETER LOAD

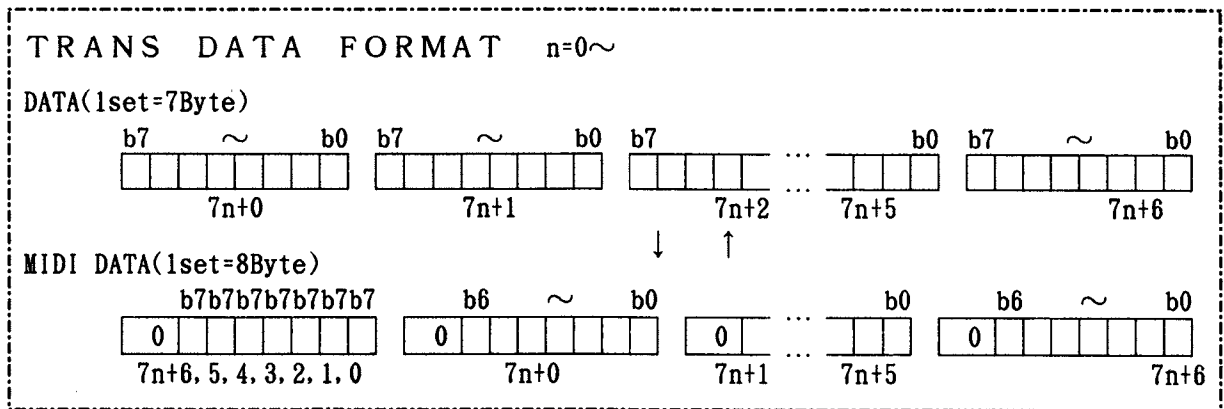
Byte	Description
F0. 42. 3n. 1A	EXCLUSIVE HEADER
0100 1101	ALL COMBINATION PARAMETER LOAD 4DH
0ddd dddd	Data (See NOTE 6)
1111 0111	EOX

NOTE 1: PANEL MODE DATA

- 0: PROGRAM MODE
- 1: VOICE PARAMETER MODE
- 2: COMBINATION PARAMETER MODE
- 3: FUNCTION MODE
- 4: COMBINATION MODE

NOTE 2 : KEYBOARD MODE

- 0: SINGLE 1: LAYER
- 2: DOUBLE 3: MULTI



- NOTE 3 : PROGRAM PARAMETER SAVE (LOAD) FORMAT (Current Type)
 [Parameter No. 0], ..., [Parameter No. 80] (81+3)×8/7=96Byte
- NOTE 4 : ALL PROGRAM & COMBINATION PARAMETER SAVE(LOAD) FORMAT (Compress Type)
 [Prog. No. 00(66Byte)], ..., [Prog. No. 99(66Byte)], [Combi. No. 0(38Byte)],
 ..., [Combi. No. 9(38Byte)] 66×100+38×10=6980.6986×8/7=7984Byte
- NOTE 5 : COMBINATIN PARAMETER SAVE (LOAD) FORMAT (Current Type)
 [Parameter No. 0], ..., [Parameter No. 50] (51+5)×8/7=64Byte
- NOTE 6 : ALL COMBINATION PARAMETER SAVE (LOAD) FORMAT (Compress Type)
 [Combi. No. 0(38Byte)], ..., [Combi. No. 9(38Byte)] 38×10=380.385×8/7=440Byte

7 0 7 M I D I インプリメンテーションチャート

ファンクション・・・	送信	受信	備考
ベーシック電源ON時 チャンネル設定可能	1-16 1-16	1-16 1-16	記憶される
モード電源ON時 メッセージ 代用	1 × *****	1 オムニON/OFF	無視される
ノート ナンバー：音域	24-96 *****	0-127 24-96	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=15-127 ×	○ 9n, V=1-127	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ○	× ○	*1
ピッチ・ベンダー	○	○	*1
コントロール チェンジ	1 ○ 6 ○ 7 ○ 10 × 64 ○ 65 ○ 96 ○ 97 ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ピッチモジュレーション *1 データエンリー *3 ボリューム *1 ハンボット *1 タンパペタル *1 ホルタメントスイッチ *1 データインクリメント *3 データデクリメント *3
プログラム チェンジ：設定可能範囲	○ 0-99 *****	○ 0-127 0-99	*2 100以上のデータは 100を引いた値を用いる
エクスクルーシブ	○	○	音色データダンプなど*3
コモン ：ソング・ポジション ：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム ：クロック ：コマンド	× ×	× ×	
その他 ：ローカル ON/OFF ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× × ○ ×	○ ○123-127 ○ ×	*4
備考	*1 ファンクションで CNTRL=ON のとき送受信する *2 ファンクションで PROG=ON のとき送受信する *3 ファンクションで EXCLUSIVE=ON のとき送受信する *4 ファンクションで ACT=ON のとき送受信する		

モード1：オムニ・オン，ポリ
モード3：オムニ・オフ，ポリ

モード2：オムニ・オン，モノ
モード4：オムニ・オフ，モノ

○：あり
×：なし

スペック / オプション

■鍵盤数

C~C: 49鍵、ハロジティー、アフタータッチ付

■同時発音数 8ホイス(SINGLE)

■プログラムメモリー数

本体: 音色プログラム=100、コンビネーションプログラム=10
カード(MCR-02):

音色プログラム=200: コンビネーションプログラム=20

■ファンクション

マスターチューン ±50セント

トランスポーズ ±1オクターブ(クロマチック)

フットスイッチアサイン(プログラムアップ、プログラムダウン、ホルダメント、タンパー)

セーブ: TO RAM カート、ロード: FROM ROM, RAM カート
メモリープロテクト: インターナル(OFF/ON)

エクスターナル(OFF/ON)

MIDI: 送受信チャンネル(1~16)、オムニ(OFF/ON)、ローカル(OFF/ON)、アクティブセンシング(OFF/ON)、プログラムチェンジ(OFF/ON)、コントロールチェンジ(OFF/ON)
エクスクルーシブ(OFF/ON)、データトランスファー

ホイールアサイン(モジュレーション、ボリューム)

■ボイスパラメーター

ピッチ(OSC1, OSC2, ティューン)

ピッチEG(スタートレベル、アタック、アタックレベル、ディケイ、リリース、リリースレベル)

OSC1 WAVEFORM(タイフ、スベクトラム、リング、リミッター、キーボードトラック)

OSC2 WAVEFORM(タイフ、スベクトラム、リング、リミッター、キーボードトラック)

OSC1 TIMBRE EG(ティンパー、インテンシティー、キーボードトラック、アタック、ディケイ、サステーン、リリース)

OSC2 TIMBRE EG(ティンパー、インテンシティー、キーボードトラック、アタック、ディケイ、サステーン、リリース)

OSC1 AMPL EG(レベル、キーボードトラック、アタック、ディケイ、サステーン、リリース)

OSC2 AMPL EG(レベル、キーボードトラック、アタック、ディケイ、サステーン、リリース)

モジュレーション・ジェネレーター

波形(△、▽、□、S/H)、フリケンシー、ディレイタイム、ピッチ、ティンパー/アンブ、ティンパーセレクト(OFF、1、2、1+2)
アンブセレクト(OFF、1、2、1+2)

ホルダメント(モート、タイム)

コントロールホイール(バンドピッチ: ±1オクターブMAX、バンドティンパー、モジュレーション: ピッチインテンシティー、ティンパーインテンシティー、MGスビート)

ハロジティー: OSC1 ティンパーEG、OSC2 ティンパーEG

OSC1 アンブEG、OSC2 アンブEG

アフタータッチ(ピッチMG、ティンパー、OSC1アンブレベル、OSC2)

ソフレベル)

アサインモート(ホリ/ユニゾン、トリガー: シングル/マルチユニゾン時のみ、ティューンユニゾン時のみ)

ホイスネーム(10文字以内)

オクターブ(Low, MIDDLE, HIGH)

■コンビネーションパラメーター

コントローラー(ソース、グループ1~8: OFF/ON)

モジュレーションジェネレーター(ソース、グループ1~8: OFF/ON)

PAN(グループ1~8: A、B、A+B)

ボリューム(グループ1~8: 0~MAX)

発音数指定: ナンバーオブホイス(グループ1~8)

…各グループ発音数の合計が最大8

レゾナンスチャンネル(グループ1~8: チャンネル1~16)

インターナル/ティューン(インターナル: 1オクターブMAX, クロマチック、ティューン: ±50セントMAX)

キースワリット/オクターブシフト(キースワリット1: C1~C7、キースワリット2: C1~C7、オクターブシフト1: +2オクターブMAX、オクターブシフト2: -2オクターブMAX)

■パネルスイッチ

プログラムスイッチ(LED付)、コンビネーションスイッチ(LED付)、ファンクションスイッチ(LED付)、パラメータースイッチ(LED付)、キーボードモートスイッチ、カードスイッチ(LED付)、ナンパーセレクトキー(テンキー: 0~9)、カーソルキー(◀, ▶)、ライトキー、UP/YESキー、DOWN/NOキー、コンパーススイッチ、ホイールリハーススイッチ、ホルダメントスイッチキー、

■パフォーマンスエディター

ティンパー、EG1、EG2(ハリュースライダーと共用)

■コントロールホイール

BENDホイール、MOD/VOLホイール

■ボリューム (0~MAX)

■LCDコントラストつまみ、LCDバックライトON/OFFスイッチ

■表示器 LCDディスプレイ、20×2(バックライト付)

■カードスロット ×1

■入力端子 Foot SW1, 2

■出力端子 アウトプット(A/MIX, B)、ホーンズ

■MIDI端子 IN, OUT, THRU

■電源 DC9V、単2電池×6

■重量 4.9Kg(電池含む)

■外形寸法 763(W)×299(D)×102(H)mm

■付属品 パラメーターシート、単2電池×6

■オプション(別売付属品)

ROMカート、RAMカート(MCR-02, MCR-03)、フットスイッチPS-1, PS-2、タンパーズスイッチDS-1、ACアダプター: KAC-301

★製品の仕様及び外観などは、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

使用上の注意

■使用する場所

故障を避けるために、次のような場所で使用しないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- ・砂やほこりの多い場所

■電源

707は電池、ACアダプターのどちらでも使用できます。ACアダプターをご使用になる場合は、必ず別売オプションの専用ACアダプター-KAC-301(DC9V)をご使用ください。他のACアダプターをご使用になると、極性の違いなどにより故障の原因になることがあります。また長期間ご使用にならない場合は、電池の液漏れを防ぐために電池を抜いておいてください。

■電気機器からの影響

707はマイクロコンピュータを使用しているため近接してラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、それらに雑音が入る場合があります。ラジオ、テレビなどから

は充分離してご使用ください。

■バックアップバッテリーについて

707では、電源切後にメモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用のバッテリーを装備しています。バッテリーの寿命は5年以上ですが、約5年を目安に交換を行う必要があります。交換の際は、最寄りの営業サービスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

■取扱いはやさしく

スイッチなどに必要以上の無理な力を加えたり、本体を落としたりすると故障の原因となります。

■お手入れ

外装のお手入れは柔らかい布で乾拭きしてください。ペンジン、シンナー系の液体や強燃性のポリッシュなどは絶対に使用しないでください。

■保証書の手続き

保証書は購入店での手続きが行われていない場合、無効となることがあります。必ず販売店で所定の手続きを行い、大切に保管してください。

アフターサービス

●製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品(電池など)を交換する場合。
2. 輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. KORGサービスステーション及び、KORG指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日などが記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

●尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理となります。また仕様変更に関しては有償となります。

●修理の際の出張料はお買い上げいただいた日より3カ月以内に限り無料です。3カ月を経過した出張修理の場合、修理料金は無料ですが、出張料を別途申し受けます。また遠隔地へのお出張修理は、出張に要する実費を申し受けることがあります。

●お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のKORG製品取扱店、またはKORG本社MIDIインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

●保証期間がきれますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品(パネルなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

●この他アフターサービスについてご不明の点は下記までお問い合わせください。

株式会社コルグ

MIDIインフォメーションセンター: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 TEL(03)324-5691

大阪営業所: 〒530 大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル 3F TEL(06)374-0691

名古屋営業所: 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 TEL(052)832-1419

福岡営業所: 〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F TEL(092)531-0166

※北海道地区のリペアについては、下記にお問い合わせください。

株式会社アッシュ: 〒064 札幌市中央区南11条西20-25 TEL(011)551-4161

(WARNING!)

This Product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

※この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

CONTENTS

707 セットアップ

SET UP	4
プリセットの音を確認しよう	5
パラメーターリスト	6
プログラムモード	
プログラムについて	8
キーボードモードについて	8
パフォーマンスエディターについて	9
プログラムモードに入るには?	9
キーボードモードを選ぶには?	10
プログラムを選ぶには?	10
パフォーマンスエディターによって 音色を変化させるには?	11
コンビネーションモード	
コンビネーションプログラムについて	12
コンビネーションモードに入りコンビ ネーションプログラムを呼び出すには?	12
コンビネーションモードで PAGEを切替えるには?	13
パラメーターモード	
I ボイスパラメーター	
ボイスパラメーターについて	14
オシレーター(OSC)の基本構成について	14
各パラメーターの機能、数値およびLCD表示	15
ボイスパラメーターに入るには?	21
ボイスパラメーターのエディット	21
エディット前の各パラメーターの データを一時的に呼び出したときは?	22
II コンビパラメーター	
コンビパラメーターについて	22
コンビパラメーターとキーボードモード	22
各パラメーターの機能、数値およびLCD表示	22
コンビパラメーターに入るには?	25
コンビパラメーターのエディット	26

ファンクションモード

メモリーバックアップについて	26
各パラメーターの機能およびLCD表示	26
ファンクションモードへの入り方、抜け方	28
マスターチューンを設定するには?	29
キートランスポーズをするには?	29
707本体の音色データを RAMカードにセーブするには?	29
RAMカードを707用にフォーマットするには?	30
メモリーカードのデータを 本体内にロードするには?	30
MIDIによるプログラム	
データトランスファーを行うには?	31
その他のファンクションモードの パラメーターを設定するには?	32
ライトモード	
パフォーマンスエディターのライトについて	32
プログラムライトについて	32
コンビネーションプログラムの ライトについて	32
プログラムライトを行うには?	33
コンビネーションプログラム ライトを行うには?	34
プレイングファンクション	
コントロールホイール、ホイールパーススイッチ、 ホルダースイッチ、フットスイッチ1, 2	35
ベロシティー機能について	35
アフタータッチ機能について	35
MIDIアプリケーション	36
MIDIリセット機能	36
エラーメッセージ・ワーニングメッセージ	37
故障とお思になる前に	38
MIDI IMPLEMENTATION	39
MIDIインプリメンテーションチャート	44

■本社/東京営業所：東京都杉並区下高井戸1-15-12〒168 TEL(03)325-5691(代) ■大阪営業所：大阪市北区
茶屋町18-21豊崎ビル3F〒530 TEL(06)374-0691(代) ■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：名古屋市昭
和区八事本町100-51〒466 TEL(052)832-1419 ■福岡営業所：福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F〒810
TEL(092)531-0166